



千葉大学大学院看護学研究院附属 専門職連携教育研究センター

令和 4 年度（2022 年度） 事業報告書

令和 5（2023）年 3 月

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

目次

I. ごあいさつ	3
II. 専門職連携教育研究センターについて	4
1. 理念、ビジョン、ミッション	4
2. 組織	5
3. 専門職連携教育研究センター規程	8
4. 令和4年度(2022年度)事業計画	10
III. センターの取り組みと成果	13
1. 教育	13
1) 亥鼻 IPE の発展・進化	13
2) 新たな IPE プログラムの開発	15
3) FD の充実	16
2. 実践・社会貢献	17
1) IPE 研究拠点からの発信	17
2) IPW の促進	18
3) 政策提言	19
3. 研究	20
1) IPE 研究の進化	20
4. 組織運営	20
1) 予算と人材の確保	20
2) PDCA サイクル(plan-do-check-act cycle)に基づく組織運営	21
3) IPERC の将来構想	21
IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評	22
1. 令和4年度(2022年度)外部評価委員会の開催	22
2. 外部評価委員による講評	22
3. 外部評価委員の講評のまとめ	24
V. 資料	25
(資料1) 亥鼻 IPE 数値実績	25
(資料2) GRIP 事業	31
(資料3) IPERC 主催研修受講者	32
(資料4) 地域貢献事業実績	35
(資料5) IPERC 特任教員・兼務教員の獲得している研究助成金 (いずれも継続)	42
(資料6) IPERC 外部からの寄付金及び委託費	42
(資料7) 研究業績	43

I. ごあいさつ

2023 年 3 月 31 日

センター長 酒井 郁子

1 年間を振り返ると、本年度も IPE と IPCP の推進に向け、様々な活動をしたことが実感されます。IPERC の教職員および協力者、関係者のみなさまの働きが実を結びつつある 1 年でした。

亥鼻 IPE のステップ 1、2 は対面でのグループワークを企画しましたが、COVID-19 の第 7 波により、オンラインでのグループワークを余儀なくされました。オンライングループワークは今年度で 3 回目となり、運営面では円滑に行うことができましたが、オンラインのメリット・デメリットが明確になった 1 年でもありました。次年度はこれらの評価を踏まえてさらに IPE として学生の相互作用を促進するべく現在次年度のステップ 1、2 に向け環境を整え学習教材を洗練させているところです。ステップ 3 についても完全オンラインで実施しました。COVID-19 の第 8 波がピークを迎える時期であったことも影響していますが、ステップ 3 は動画教材などを多く使いますので、オンラインでの活動に向いているという判断をしました。ステップ 4 はオンラインとオンサイトのハイブリッドで実施しました。模擬患者さま、大学病院の専門職の皆様におかれましては今年度も多大なご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。また診療・ケア参加型 IPE であるクリニカル IPE (CIPE) については昨年同様、COVID-19 対応で大変な中、昨年に引き続き大学病院で実施することができました。今年度は、関係する診療科および病棟、そして各部署のみなさま、参加学生に丁寧に説明し、CIPE の意義、目的、患者選定の基準、学生に期待する成果を共有する時間を取りました。専門職の皆様が CIPE について理解し受け入れてくださったことにより、参加学生さんたちは、実臨床における診療ケア計画の立案、説明、一部実施というプロセスを体験することができました。また学生チームが立案した診療ケア計画を実際に取り入れてくださる部署もあり、あらためて診療ケア参加型の IPE が現場と患者に及ぼす影響を実感しました。CIPE については必修化を目指して 3 学部が様々な協議を続けています。道のりはまだ遠いと思いますが、検討を継続していくことそのものが亥鼻 IPE の進化を支えていると思っています。

今年度は大学病院との連携にさらなる進展がありました。まず 4 月に新入職員を対象とした IPW 研修を行いました。また新人看護師、研修医、研修歯科医、そして新人検査技師との合同採決演習を実施しました。合同採血演習は 2 回目ですが今年度は検査技師が仲間に入ってくれたことにより、職種間の相互理解が深まり、受講者からの評価も高いものとなりました。これらの活動を基盤として、大学病院では、2023 年度から総合教育研修センターと看護部キャリア開発室が統合され、現任教育を担う部署として改組一元化されることとなりました。このことにより、亥鼻 IPE と大学病院 IPE の継続性が強化されていくと思います。

このような大きな変化のなか、IPERC の職員にも大きな変化がありました。これまで亥鼻 IPE の改善、社会貢献活動に多大な貢献をしてくださり、今年は日本保健医療福祉連携教育学会学術集会での発表で学術集会長賞を獲得した臼井いづみ特任講師が、次年度は大学病院のクリニカルスキルズセンターに異動となります。昨年 3 月末に大学病院に異動した馬場由美子特命助手について大学病院との連携のかなめとして活躍してくれると思います。次年度には新しい特任准教授を迎える予定です。

海外との交流も大きな進展がありました。これまでの交流は維持しつつ、あらたに大学の世界展開力強化事業として GRIP プログラムが採択され、国際的に専門職連携教育を基盤としたサービスラーニングプログラムがスタートしました。またこの採択により、千葉大学の博士前期課程国際実践学に副専攻として GRIP が開講されます。GRIP はこれまで IPERC が交流してきた、レスター大学、モナシュ大学、そしてシンビオシス国際大学との共同プログラムです。こちらのプログラム担当として講師、特任准教授、事務補佐の 3 人が IPERC に新しい仲間として加わりました。

今年度は、COVID-19 の影響を受けながらも、例年になく発信しつづけた年でもありました。たくさんの方の大学からの FD の依頼を引き受け、研究論文も書きました。特筆すべきは、今年の 6 月出版に向け「これからの IPE ガイド」をみなさまが執筆してくださったことです。

この 1 年間、この「ごあいさつ」のページに書ききれないほどの活動を支えてくださいました、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

Ⅱ．専門職連携教育研究センターについて

当センターの理念、ビジョン、ミッションは、平成 27 (2015) 年 1 月からセンター長及び特任教員で原案を作成し、教育研究実践部会及び運営委員会で検討し、平成 27 (2015) 年 2 月 23 日、平成 27 年度(2015 年度)第 1 回運営委員会で決定した。

1. 理念、ビジョン、ミッション

1) 理念（社会における存在意義、信条）

「専門職連携教育・実践・研究の開発・蓄積・普及」

当センター（IPERC：Interprofessional Education Research Center）は、本学の理念「つねに、より高きものをめざして」をよりどころに、超高齢社会とグローバル化に対応する次世代を切り開く人材教育とイノベーションに資する実践や研究を行い、専門職連携学の体系的構築を考究する研究拠点として機能し、もって人々の健康的で豊かな生活に資することを理念とする。

2) ビジョン（目指すべき姿、未来像）

「IPE（Interprofessional Education：専門職連携教育）研究拠点として専門職連携学の構築と組織的な発展をめざす」

本学で先導してきた医療系 3 学部（医学・薬学・看護学）の亥鼻 IPE の蓄積を踏まえ、当センターは IPE 研究拠点として機能強化し、さらに発展した姿として「専門職連携学」の大学院の設置を目指す。

3) ミッション（果たすべき使命、社会的役割）

（1）教育

亥鼻 IPE を発展進化させ、さらに大学院や医療系以外の教育機関との IPE など新しい IPE プログラムを開発し、自らの専門的な力を高めるとともに、他者と連携協働して目的を達成でき、組織改革をしていける次世代型人材を育成する。

（2）実践（社会貢献）

IPW（Interprofessional Work：専門職連携実践）を担う人材育成（現任者対象の IPE）について各種研修プログラムを開発し、大学病院や総合病院、地域の医療と介護を包括した IPW を促進する。また、IPE 研究拠点として教育・実践・研究の蓄積および発信を行うとともに、IPE や IPW を推進する政策提言を行う。

（3）研究

IPE に関する国内外の研究調査等を踏まえ、亥鼻 IPE の評価研究を実施し、効果的な IPE プログラムの理論化・体系化を行う。また、IPW に関する国内外の研究調査等を踏まえ、病院内や地域医療、そして、その両者をつなぐ有効な IPW 人材育成およびシステムに関する研究を行う。これらを専門職連携学として理論化・体系化する。

（4）組織・運営

IPE 研究拠点としてその機能が発揮できるよう安定的な予算獲得と人材確保を行い、ミッションが達成できるよう、PDCA サイクル（plan-do-check-act cycle）による運営体制を構築する。

2. 組織

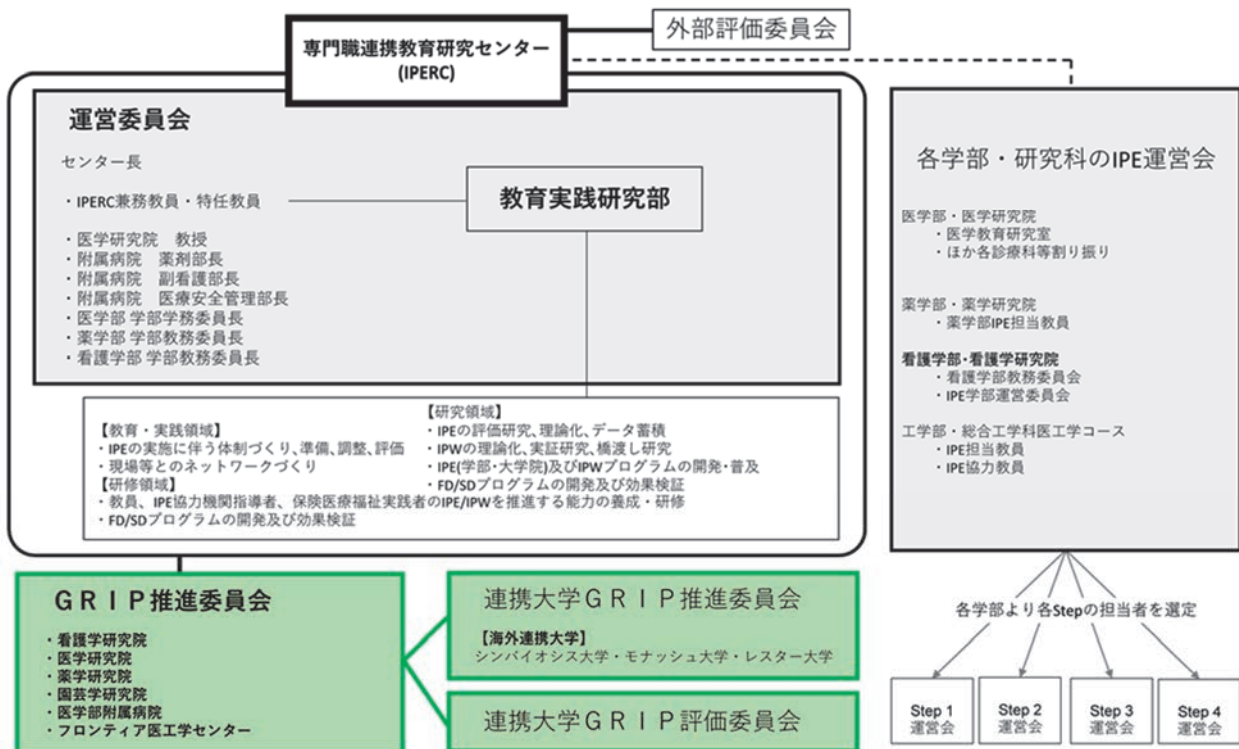
当センターは、看護学研究院の附属機関として位置づけられている。

センター運営委員会は、第1号委員であるセンター長、第2号委員である医学部・看護学部・薬学部の教務担当委員長、その他センター長が必要と認めた第3号委員で構成される。

また、2022年度の文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の一つとして、グローバル地域ケア IPE+創成人材の育成（Global & Regional Interprofessional Plus Program: GRIP Program）が採択され、令和4年10月に GRIP 推進委員会を発足し、当センターに位置づけた。

下記に組織図を示した。

I P E R C と 亥 鼻 I P E の 組 織 図



センターには「教育実践研究部会」をおき、研究、教育・実践、および研修活動として、図中に示した活動を行っている。「教育実践研究部」の構成者は、特任教員および関係各学部の兼務教員である。

「教育実践研究部会」は、3学部すなわち看護学部の教務委員会、医学教育研究室、薬学部 IPE 担当教員と連携し亥鼻 IPE の科目運営を行っている。

また、「外部評価委員会」を設置し、センターの活動について評価、助言を得ている。

センターの事務所管は、看護学部事務部総務第三係が担当している。

令和4年10月に発足した GRIP の事業は、GRIP 推進委員会を中心に企画、運営を行っている。

令和4年度(2022年度) センター組織構成者名簿

<IPERC 運営委員会>

第1号委員(センター長)

- ・酒井 郁子(看護学研究院 教授)

第2号委員(医学部・看護学部・薬学部の教務担当委員長) 五十音順

- ・石橋みゆき(看護学部 学部教務委員長)
- ・伊藤 彰一(医学部 学部学務委員長)
- ・伊藤 素行(薬学部 学部教務委員長)

第3号委員(その他センター長が必要と認めた者) 五十音順

(あて職による委員) 五十音順

- ・石井伊都子(医学部附属病院 薬剤部長)
- ・大塚 将之(医学研究院 教授・医学部附属病院 副病院長)
- ・菊田 直美(医学部附属病院 副看護部長)
- ・相馬 孝博(医学部附属病院 特任教授・副病院長・医療安全管理部長)

(教育実践研究部:兼務委員) 五十音順

- ・朝比奈真由美(医学部附属病院 特任教授)
- ・飯野 理恵(看護学部 学部教務副委員長)
- ・石川 雅之(薬学研究院 助教)
- ・井出 成美(看護学研究院 准教授)
- ・伊藤 彰一(医学研究院 教授) ※再掲
- ・上原 知也(薬学研究院 教授)
- ・笠井 大(医学研究院 講師)
- ・鈴木 紀行(薬学研究院 准教授)
- ・関根 祐子(薬学研究院 教授)
- ・中口 俊哉(フロンティア医工学センター 教授)
- ・眞嶋 朋子(看護学研究院 教授)

(特任教員) 五十音順

- ・天井 響子(看護学研究院 特任准教授) (令和4年10月～)
- ・臼井いづみ(看護学研究院 特任講師)
- ・孫 佳茹(看護学研究院 特任講師)

(GRIP 推進室員) 五十音順

- ・天井 響子(看護学研究院 特任准教授) ※再掲
- ・野崎 章子(看護学研究院 講師) (令和4年10月～)

<GRIP 推進委員会> (令和4年10月～)

(看護学研究院) 五十音順

- ・天井 響子(看護学研究院 特任准教授) ※再掲
- ・飯田貴映子(看護学研究院 准教授)
- ・石橋みゆき(看護学部 学部教務委員長) ※再掲
- ・井出 成美(看護学研究院 准教授) ※再掲

- ・臼井いづみ（看護学研究院 特任講師） ※再掲
- ・カズノブ タビット（看護学研究院 助教）
- ・酒井 郁子（看護学研究院 教授） ※再掲
- ・孫 佳茹（看護学研究院 特任講師） ※再掲
- ・仲井 あや（看護学研究院 助教）
- ・野崎 章子（看護学研究院 講師） ※再掲

（医学研究院）五十音順

- ・伊藤 彰一（医学研究院 教授） ※再掲
- ・笠井 大（医学研究院 講師） ※再掲
- ・鋪野 紀好（医学研究院 特任准教授）
- ・山内かづ代（医学研究院 特任教授）

（医学部附属病院）

- ・朝比奈真由美（医学部附属病院 特任教授） ※再掲

（薬学研究院）五十音順

- ・石川 雅之（薬学研究院 助教） ※再掲
- ・伊藤 素行（薬学部 教授） ※再掲
- ・関根 祐子（薬学研究院 教授） ※再掲

（フロンティア医工学センター）

- ・中口 俊哉（フロンティア医工学センター 教授） ※再掲

（園芸学研究院）

- ・岩崎 寛（園芸学研究院 准教授）

事務補佐員 五十音順

- ・高野 佳奈（R4.11～） ・佐野朋子 ・富永嘉子 ・長谷川容佳

<外部評価委員> 五十音順

- ・新井 利民（立正大学 社会福祉学部社会福祉学科 准教授）
- ・井手 正明（SP 千葉） *SP：模擬患者 （任期：令和4年12月31日迄）
- ・大山 良子（社会福祉法人 りべるたす） （任期：令和5年1月1日～）
- ・川崎 由紀（千葉県 健康福祉部健康づくり支援課） （任期：令和5年1月1日～）
- ・川島 啓二（京都産業大学 共通教育推進機構 教授・初年次教育センター長）
- ・鈴木 麗子（千葉県 健康福祉部健康づくり支援課） （任期：令和4年12月31日迄）
- ・渡邊 秀臣（高崎健康福祉大学 保健医療学部 学部長）

3. 専門職連携教育研究センター規程

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター規程は、令和3年3月に看護学研究院教授会で決定した。

(趣旨)

第1条 この規程は、千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、社会のニーズに対応する体系的な専門職連携教育・連携実践を推進するためのプログラムを開発・普及するとともに、我が国及びアジア圏における専門職連携に関する教育、実践及び研究を発展・進化させることを目的とする。

(教育実践研究部)

第3条 センターに、教育実践研究部を置く。

(職員)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 センター兼務の教授、准教授、講師及び助教
- 三 その他の職員

(センター長)

第5条 センター長は、看護学研究院長の推薦により学長が選考する。

2 センター長の任期は、年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター長は、センターの業務を総括する。

(センター運営委員会)

第6条 センターに、センターの円滑な運営を図るため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第7条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの運営に関する重要事項
- 二 その他運営委員会が必要と認めた事項

(組織)

第8条 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 医学部、薬学部及び看護学部の教務担当委員長
- 三 その他センター長が必要と認めた者

(委員長)

第9条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(会議)

第10条 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第11条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を運営委員会に出席させることができる。

(外部評価委員会)

第12条 センターに、外部評価を実施するため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第13条 センターの事務は、亥鼻地区事務部総務課において処理する。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。

2 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター規程（平成27年4月1日制定）は、廃止する。

4. 令和4年度(2022年度)事業計画

●中長期5か年計画 令和2年～令和6年 (2020～2024)

1) 教育

(1) 亥鼻 IPE の発展・進化

評価研究を通して、それぞれの Step を精査し必要なプログラムの開発を行う。それをもって効果的な「亥鼻 IPE」(Step1～5)の教育プログラムを確立する。また、適切に PDCA サイクルを運用し、教育プログラムを管理・運営・実施する。

(2) 新たな IPE プログラムの開発

グローバル IPE をプログラム化し、学生間の国際的・学際的相互学習の場を開発する。海外の多様な IPE プログラムの経験値を蓄積し、カリキュラムデザイン研究を発展させる。大学院での IPE プログラムを開発する。この中で災害時の専門職連携実践を進化させるための教育プログラムの開発・普及をする。

(3) FD の充実

FD のしくみを確立させ、亥鼻 IPE の人材バンクを組織化する。

(4) 受益者の参加による IPE の発展

患者・サービス利用者等、医療・保健・福祉・介護サービスの受益者が亥鼻 IPE に参加する仕組みを開発する。

2) 実践・社会貢献

(1) IPE 研究拠点からの発信

センターで開発した IPE プログラムや研修プログラムを書籍や教材といったプロダクトとして作成し、社会に発信する。またプログラム開発に使用した資料やデータベースの発信・共有をはかる。

(2) IPW の促進

専門職連携実践能力の向上を目指した IPW 研修の質を高め、継続して提供する。また、実践現場の課題に即した IPW コーディネーターの人材育成に関する研修プログラムを確立する。

(3) 政策提言

IPE/IPW の能力を有した人材が社会的に認知され、意欲的に活動するための認証制度について政策提言をする。また、医療系学士課程教育に対して、専門職・多職種連携教育関係科目の開設と制度化を促す活動を多面的に検討し、展開する。

3) 研究

(1) IPE 研究の進化

学生の IPE 体験を蓄積し、IPE の理論化・体系化に取り組み、専門職連携学の学術的枠組みを構築する。また、IPE の成果に関する国際比較研究に取り組む。その過程で IPE 研究者を育成する。

(2) IPW 研究の進化

様々な保健医療福祉介護機関における実践者の IPW 体験や、患者・サービス利用者の満足度や健康アウトカムへの影響を蓄積し、IPW のアウトカム研究に資する理論開発を行う。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

新たな事業費や研究助成金の確保を迫及し、発展的な事業展開ができるようにする。人材確保に関してはクロスアポイント制度の活用など、幅広く IPE・IPW に関わる研究や実務を担当できる人材の確保を図る。

（２）PDCA サイクルに基づく組織運営

IPERC の運営体制を、PDCA サイクルをもとに検証しながら運営を行う。

（３）IPERC の将来構想

ビジョンとして掲げている「専門職連携学」の構築を目指し、大学院における履修証明プログラムの導入、副専攻の設置などを検討する。

●令和４年度(2022 年度) 事業計画

1) 教育

（１）亥鼻 IPE の発展・進化

- ①形成的評価を行い教育プログラムの課題の明確化と改善を行う。
- ②COVID-19 感染予防を念頭に置き、メディア授業における授業の工夫と改善を行う。
- ③COVID-19 感染予防を念頭に置き、CIPE の試行を実施する。
- ④CIPE の必修化の道筋を明確にする。（ワーキングチームを設け検討を行う。）

（２）新たな IPE プログラムの開発

- ①オンラインプログラムを含めたグローバル IPE のプログラム化を行う。
- ②大学院における IPE プログラムの実施と評価

（３）FD の充実

- ①Step1～4、および CIPE の FT 研修（FD）を実施する。そのための教材開発を行う。
- ②亥鼻 FD プロジェクトを継続して実施する。
- ③亥鼻 IPE の人材バンクの組織化を図る。

2) 実践・社会貢献

（１）IPE 研究拠点からの発信

- ①国内外の大学や専門学校における IPE カリキュラムの開発と運営に関して、IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修や、コンサルテーション活動を通じ、IPERC が蓄積したカリキュラムマネジメントおよび FD の知見を広く周知する。
- ②IPE プログラムや研修プログラムについて書籍や教材、資料、データベースの発信に努める。

（２）IPW の促進

- ①IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修を実施する。
- ②大学病院全職種新人研修を病院、医学部、薬学部と協働して実施する。
- ③大学病院の現任教育 IPE プログラム開発を大学病院と協働して実施する。
- ④千葉県からの委託事業として認知症専門職における多職種協働研修を実施する。
- ⑤保健医療福祉各種機関からの要請に応え、様々な現場での多職種協働実践能力向上のための研修に協力する。

（３）政策提言

- ①健康関連専門職の基礎教育課程における専門職連携教育に関わる科目の開設や制度化について、提言していく。

3) 研究

（１）IPE 研究の進化

- ①医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポートを行う。
- ②IPE における学生の体験や現場の実践者の IPW 体験を蓄積し、IPW, IPE の理論化の理論化に取り組む。
- ③研究成果を発信する。

4) 組織運営

(1) 予算と人材確保

- ①研修事業による自己収入を図る。
- ②新たな事業費や研究助成金などの確保を図る。
- ③人材確保に関してはクロスアポイント制度の活用などの可能性を検討する。

(2) PDCA サイクルに基づく組織運営

- ①年間事業計画の策定と実施、評価を行う。
- ②外部評価委員会による評価を受け運営に反映させる。
- ③運営委員会を開催する。
- ④教育実践研究部会を開催する。

(3) IPERC 将来構想の具現化

- ①IPERC を含む総合教育棟の概算要求
- ②専門職連携学の構築を目指し、大学院における履修証明プログラムの導入や副専攻の設置などを検討する。

Ⅲ. センターの取り組みと成果

「1. 教育」「2. 実践」「3. 研究」「4. 運営」 4つの柱に沿って中長期目標を見出しとして、令和4年度(2022年度)の取り組みと成果を述べる。

1. 教育

1) 亥鼻 IPE の発展・進化

亥鼻 IPE の目的は、「患者・サービス利用者中心の医療」を担う「自律した医療組織人の育成」である。

亥鼻 IPE の学習到達目標は、以下の表のとおりである。貢献力・調整力に大別された専門職連携実践能力を段階的な学習プログラムの中で身につけることが目標となっている。

表 専門職連携実践能力と Step ごとの学習到達目標

	Step1	Step2	Step3	Step4
専門職連携実践能力	専門職としての態度の基礎を形成し、患者・サービス利用者および他学部の学生とコミュニケーションでできる能力を身につける。Step1の終了時、学生は以下のことができる。	チームメンバーそれぞれの職種の役割・機能を把握し、効果的なチーム・ビルディングができる能力を身につける。Step2の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者、医療専門職間の対立を理解し、問題解決ができる能力を身につける。Step3の終了時、学生は以下のことができる。	患者・サービス利用者を全人的に評価し、患者・サービス利用者中心の専門職連携によって診療・ケア計画の立案ができる能力を身につける。Step4の終了時、学生は以下のことができる。
I. チームの目標達成のための行動	チームの取り組みと成果を説明できる	チームの目的達成に向け、自分の行動を調整できる	チームの目標達成のために、チーム内の対立を解決できる	チームの目標達成のために、チーム状況を評価し、自己の実践を決定できる
II. チーム運営のスキル	チームメンバーそれぞれの専門領域の役割機能を理解し尊重できる	チームづくりに必要な基礎知識とスキルを理解し、自分のチームに活用できる	対立及び対立の解決について説明でき、チームで生じている対立に気づくことができる	チームメンバーの専門性の特徴や限界に基づいてチームメンバーと協力できる
III. チームの凝集性を高める態度	チームメンバー、他の専門職及び教員と肯定的なコミュニケーションをとることができる	他の専門職や教員、チームメンバーと、チームの目標達成のために有効なコミュニケーションをとることができる	患者・サービス利用者の治療ケアのあり方について、チームメンバーと率直に話し合うことができる	チームメンバーおよびかわる多様な専門職と、良好な人間関係のもと、話しやすい雰囲気を作ることができる
IV. 患者を尊重した治療・ケアの提供	患者・サービス利用者とのコミュニケーションから、患者・サービス利用者の体験と希望を理解できる	医療福祉サービスおよび行われているケアを患者・サービス利用者の自律および自立の観点から説明できる	複数の問題解決案の中から、患者・サービス利用者らの意思を尊重した最も良い方法を、チームとして選択できる	患者・サービス利用者への全人的評価に基づいた退院計画を、チームとして立案できる
V. プロフェッショナルとしての態度・信念	専門職として成長するために何が必要かを考えることができる	実際に行われているケアの根拠と理由を(説明を受けて)理解できる	学生の立場から専門職としてあるべき姿を考えることができる	専門職及び教員の支援を受けて、最新の専門知識を退院計画に反映できる
VI. 専門職としての役割遂行	チームの目標達成のために自己の責任を果たすことができる	医療、保健、福祉の場における各専門職の役割機能を説明できる	学生として現在保有している専門的知識と判断に基づいて、チームメンバーに意見を述べるができる	自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範囲および課題を学生の立場から説明できる

以下、令和4年度(2022年度)の実績を述べる。令和4年度は、講義はオンライン、グループワークは対面での実施を検討し準備していたが、COVID-19の感染状況により、昨年度に引き続きメディア授業での実施となった。Step1～4までの参加学生数、協力教員数などのデータを(資料1)に示す。

(1) 形成的評価による教育プログラムの課題の明確化と改善

- ・Step1 では昨年度の授業評価で工学部の満足度が低かった。講義に対する質問は、フォーラムでの投稿から 200 文字のレスポンスシートの記入に変更した。教員からのフィードバックとして質問に回答した。教員による IPE へのネガティブな発言が制御され、学生の評価は高まった。(参考資料 満足度の推移)
- ・Step1 の授業評価アンケートでは、工学部、医療連携に関する言及が少ない、「グループの愛称を決める」というグループワークについて、その後のグループ活動に関係するものに変えるべきという指摘もあり、今後改善の余地がある。
- ・当事者体験は講演者の生の声を聴いてもらう方が良いという判断から、オンデマンドではなく、Zoom ウェビナーでのライブ配信とした。患者の声が聞けるという内容には評価が高かった。

- ・ Step2 の「フィードバックのロールプレイ」は昨年「動画と同じシナリオで実施するのは意味がない」という指摘があったため、動画での評価と動画とは異なるシナリオでブレイクアウトルームでの実演という構成にした。Moodle のグルーピング機能を使用して、グループメンバーそれぞれが異なるシナリオを手にロールプレイに取り組んだ。
- ・ 授業評価では、4～5 人の少人数でのグループワーク、発表が良いという指摘があった。
- ・ Step3 については、授業時間が短い、2 日連続だと自己学習する時間が取れないとの指摘があった。
- ・ Step4 では、学生が患者について理解しやすくするため、設定を変更するなど、5 つの症例を改訂した。
- ・ Step4 の学習成果発表会の発表形式を PPT に統一した。

(2) Covid-19 感染予防を念頭に置いたメディア授業における授業の工夫と改善

- ・ 講義をオンデマンド、グループワークは対面での実施を準備していたが、COVID-19 の感染状況により、3 月初めに Step1、Step2 のオンラインでの実施を決定した。8 月に第 7 波が来たため、Step3、Step4 も完全オンラインでの実施を決定した。
- ・ 亥鼻 IPE の運営には千葉大学 Moodle、オンライン会議システム Zoom、Google Workspace、Microsoft Teams、統合メールシステムを使用し、教員間のミーティングには Microsoft Teams を用いた。
- ・ 講義は全て動画を千葉大学 Moodle 上に掲載してオンデマンド配信とした。
- ・ 各ステップ「学習の進め方」の紙媒体での配布はせず、千葉大学 Moodle 上に時系列・課題内容毎にトピックを構築した。スクロールの多さを改善するため、最新トピックが最上に来るよう、毎回トピックの位置を変更した。しかし、授業評価では「分かりにくい」、「順番が変わると混乱する」という指摘があった。
- ・ 学生数が全てのステップにおいて 200 人を超えるため、各ステップ 2 つの Zoom ライセンスを使用して運営した。
- ・ Step1 では、学生が各種システムに慣れていないため、事前に Zoom での通信テストを複数回行い、円滑なプログラム運営に務めた。通信テストで、Google Workspace アカウントを用いた Zoom へのサインイン、Google Classroom への参加、ワークシートへの記入等を準備することで、学生も運営側もスムーズに運営することができた。
- ・ Step1 では、「病院での患者インタビュー」を 2 施設で病院職員の協力のもと Microsoft Teams を準備したノート PC を病棟に持参し、実施した。スピーカーマイクを使用することで、学生の声が、患者さんにとって聞きやすく、また、接続補助の教員にも聞こえ、スムーズに運営できた。
- ・ Step2 では、「チームでの現場訪問」を「Zoom での専門職へのインタビュー」に変更して実施した。大学附属病院、市中の病院、薬局、高齢者施設、訪問看護ステーション、診療所など計 53 部局・施設、80 名の専門職の協力を得た。オンラインの実施ならではの成果として、北海道や山形県など遠方からも協力が得られた。
- ・ Step3 は Zoom で実施した。
- ・ Step3 では、グループワークを担当する教員への資料共有を Microsoft Teams を使って行い、発表会評価入力も Web 上で行えるようにした。集計作業の効率化が図れ、今後は出席状況についても同様の方法を検討する。
- ・ Step4 は医学部新棟に運営本部を置き、Zoom を使用して実施した。模擬患者、一部のコンサルタントが医学部グループ学習室を利用して学生との面接を行った。
- ・ 医学部医学教育研究室から 12 台のプロジェクターを、医学部学務係から 5 台のノート PC を借用した。
- ・ 専門職とのコンサルテーションでは、学生が自分たちで時間管理をして、専門職が待つブレイクアウトルームに移動することにしたところ、開始が遅れるグループはなく、うまく運営できた。
- ・ 授業評価では、全体として通信環境の改善に関する指摘と授業に参加する環境（複数の人が同じ場所からアクセスすると他の人が議論する声が聞こえて話しづらいなど）の改善に関する指摘が多く集まった。Zoom でのアクセス可能な教室を増やすなどの対応が必要である。

(3) CIPE (クリニカル IPE) の試行および CIPE の必修化の道筋の明確化

- ・ 附属病院では、6 診療科 6 病棟において、診療参加型 IPE (CIPE) を実施した。合計 7 グループ 27 名 (医学部 5 年生 8 名、看護学部 4 年生 11 名、薬学部 5 年生 8 名 (内 2 名は他大学) が参加した。6 診療科 6 病棟で、医師 11 名、看護師 9 名、薬剤師 13 名が指導に協力した。実習準備として、実習指導を担当する専門職 (医師、看護師、薬剤師) との打ち合わせを各診療科含め病棟ごとに行った。打合せには、COVID-19 感染対策から、Teams によるオンライン会議システムを用いた。学生のプログラム評価アンケート (回答率 81%) から、9 割以上が CIPE の学習効果があったと回答した一方で、病棟内での学生同士の学習の場の確保やカルテ閲覧の機会の確保など学習環境に関する要望や、3 日間では期間が短く時期をずらして全員行うべきとの回答もあった。
- ・ CIPE の今後について、3 学部教員によるブレインストーミング形式の検討会を 2 回持った。(8 月 30 日、31 日) CIPE を実施する意義は高いとの共通認識は確認できた。課題はロジの問題と指導者の確保、IPE 的学習環境の促進であり、その対策について様々な意見が出された。引き続き複数のシナリオを整え、提示・検討していくことが確認された。

2) 新たな IPE プログラムの開発

(1) グローバル IPE のプログラム化

- ・ 昨年度に引き続き、ライブツィヒ大学助産課程の学生と看護学部生との交流を GHNII のプログラムとして実施した。6 名の看護学部生が受講し、2 名が単位を取得した。今後、ライブツィヒ大学での医学部・助産学生との IPE に参加するために交流を継続していく。
- ・ 亥鼻 IPE の外国人留学生の受け入れ再開に向けて
2019 年度までに香港大学・コンケン大学などの学生が千葉大学亥鼻 IPE に参加していたが、COVID-19 のパンデミックによりその交流が途絶えていた。2022 年 10 月に香港大学より、Step3 (オンライン) への参加打診があったため、IPERC では 12 月末の実施に向け、教材の英語バージョンの作成・各学部に英語でディスカッションできる学生の選出など、海外の留学生がオンラインで参加できるよう準備を進めてきた。最終的に香港大学側の事情で学生が募らなかったが、IPERC では同時期に台北医学大学・ソウル国立大学にも亥鼻 IPE の受け入れ再開を宣伝し、今後、オンラインを含め海外から留学生が亥鼻 IPE に参加できるよう、アフターコロナのグローバル IPE の実施に向け、一歩踏み出している。
- ・ 台北医学大学との IPE プログラム開発に向けて
シミュレーション IPE とサービスラーニングの両分野において①両校の学生の交流プログラムの開発②教員間の共同研究の可能性に向けて話し合いを進めることになった。
2022 年 9 月より、台北医学大学から 2023 年度オンサイトでの交換留学について打診があり、当初は MOU の締結を視野にいて交換留学プログラムの実施について話し合いが始まった。千葉大学看護学部では、2023 年 7 月から 8 月までの間 2 週間にわたり、台北医学大学の学生を受け入れることになった。また、千葉大学側から台北医学大学に対し、第 3 ターンもしくは第 6 ターンにおいて、千葉大生を受け入れプログラム実施 (プログラムにシミュレーション学習・サービスラーニング的な内容を組み込む) を依頼した。
2022 年 11 月に酒井郁子センター長が「令和 4 年度部局独自プログラム」支援として、「台北医科大学夏季交流プログラム」について 30 万円のプログラム開発経費 (千葉大学令和 4 年度 ENGINE 経費のうち、プログラム運営費・新規開発費) を獲得した。これを機に、2023 年 3 月 8 日に台北医学大学看護学部関係者 Hsiao-Yean Chiu 教授、Yeu-Hui Chuang 教授、事務職員 Dr. Min-Ting Wu を招へいし、千葉大学で本プログラム開発について初回の打ち合わせを行うことになった。さらに、3 月 13 日から 15 日まで IPERC 臼井いづみ特任講師が台北医学大学を訪問し、プログラムの開発の可能性についてさらに先方の状況を確認した。2023 年 3 月 14 日から 23 日まで台北医学大学が 3 年ぶりに実地開催の形で提携校の学生に対しインバウンドプログラムを行うことになり、千葉大学看護学部生 3 名が無料枠で参加することになった。今後の両校の学生交流プログラムの試行事業として位置付けたい。
- ・ 世界展開力強化事業：グローバル地域ケア IPE プラス創生人材の育成 (GRIP program) が採択され 10 月から始動した。この事業の目的は、SDGs の開発目標 3「すべての人に健康と福祉を」を実現し、WHO が提唱する Universal Health Coverage「全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」の推進のために、地域ケアを創生する人材を育成することである。インド、オーストラリア、イギリスを相手国とし、地域ケア創生に関わる全学部および

全大学院が参加し、国際的な「地域ケア創生ネットワーク」を構築することを目指すものである。医療系だけでなく、多分野の学部学生、大学院生を対象とした国際的な IPE プログラムを含んだプログラムである。2022 年度の GRIP 事業実績を（資料 2）に示した。

（2）大学院における IPE プログラムの開発

- ・大学院看護学研究院の千葉大学大学院共通科目として位置づけられた「専門職連携実践論」「専門職連携教育論」を開講した。「専門職連携教育論」では、海外の IPE・IPC 関連の文献を読み、ディスカッションポイントをもって参加する討議形式の授業を持った。「専門職連携実践論」では、専門職連携の基礎的知識の教授と共に、IPC に活用できる連携スキルのオンライン演習を行った。
- ・上記(1)に示したように世界展開力強化事業として GRIP が 10 月から発足した。これに伴い、博士前期課程副専攻、国際実践学 GRIP が立ち上がった。IPE 関連科目 3 単位を含む 8 単位の取得により大学院国際実践教育学の学位が授与されることとなった。令和 5 年 4 月からスタートする。

3）FD の充実

（1）亥鼻 IPE のファシリテーター（FT）研修の実施

- ・Step1～4、および CIPE の FT 研修（FD）を実施した。COVID-19 の影響持続により亥鼻 IPE プログラムは Step1 と Step2 を含め、全てオンライン（同時双方向型・オンデマンド型）にて実施した。実施に伴い FD 資料を改編した。
- 【Step1、3、4】では、メールにて①教員説明資料、②FD 動画のリンク先を送付し、③適宜、担当教員の質疑に回答することで FD とした。
- 【Step2】では、5 月 26 日（火）17:00～18:30 Zoom にて FD を開催した。出席者は 42 名であった。内訳は、医学部 0 名、看護学部 1 名、薬学部 1 名、附属病院医師 15 名、外部実習機関実習担当者 22 名、IPERC 3 名であった。欠席者へは、FD の実施内容を録画した動画を共有し、各自視聴するよう対応した。

（2）亥鼻 FD プロジェクトの継続実施

- ・亥鼻 IPE でファシリテーターとして担当する教員向けに、メールにて「亥鼻 IPE の理解とファシリテーションとフィードバックのポイント」に関する動画の視聴案内をし、5 月 10 日（火）17:00～18:00「亥鼻 IPE への質疑応答および他学部の教員間での FT 体験の共有」と題して FD 説明会を開催した。14 名が参加した。
- ・7 月 11 日（月）17:00～19:00 「リアクションからレスポンスへ～異文化感受性発達理論を問題解決に活かす～」をテーマに、Zoom を用いて開催した。亥鼻キャンパス教職員・大学院生および附属病院職員を対象に開催通知を行い、24 名が参加した。メーカー亜希子氏（Interculturalist LLC 代表、組織リーダーシップ開発学、異文化感受性アセスメントシニアトレーナー）を講師とし、①異文化感受性発達理論の紹介、②ケーススタディを通じた日々の活動の中での自分の無意識のリアクションとレスポンスの違いを知る、③日々の問題解決において意識的な結論を導く方法を知るという内容について講義とワークを行った。実施後に行ったアンケート調査では「満足した/まあまあ満足した」という答えが全回答の 9 割に達した。

（3）亥鼻 IPE の人材バンクの組織化

- ・IPERC 主催の IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修や IPW ベーシック研修・IPW マネジメント研修などを通じて、IPE・IPW に高い関心を持つ人材が集まり、IPE・IPW の学習を継続し、スタディグループへの参加や、亥鼻 IPE の協力者としての参加があった。
- ・学内の教員の協力体制の組織化は、各学部でのルールに基づきシステム化されている。

2. 実践・社会貢献

1) IPE 研究拠点からの発信

IPE を推進してきた経験やそこから得られた知見を様々な形で発信し、日本のそして海外諸国の IPE の発展に寄与することを目的として、以下の事業に取り組んだ。

(1) IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修やコンサルテーション活動を通じた蓄積した知見の周知

- ・ IPE カリキュラムマネジメント及び教育方法に関する研修会を実施した。
令和 4 年(2022 年)8 月 20 日(土)・11 月 23 日(水・祝)の 2 日間コースで、IPE カリキュラムマネジメント・授業開発研修を実施した。本研修は、医療保健福祉の専門職の養成に携わる教員が、専門職連携教育の実装に向けて必要なカリキュラムマネジメント能力および基礎的な授業開発を高めることを目的としている。(資料 3) のとおり 9 名の受講があった。全員に修了証書を発行した。
- ・ 藤田医科大学、横浜市立大学など他大学の教員 FD に多職種連携教育にかかわるテーマで、講義・ワーク、コンサルテーションの依頼があり、酒井センター長が対応した。

(2) IPE プログラムや研修プログラムについての書籍や教材、資料、データベースの発信

- ・ 台北医学大学より講義動画依頼
台北医学大学より自校の夏季交流プログラム(2022TMUN Online Exchange Program)に日本の看護教育を紹介する講義(動画)の依頼を受けた。このプログラムは、台北医学大学が 7 月 11 日から 22 日まで自校と海外にある提携校の看護学部の学生を対象にオンラインで開催されたものである。千葉大学看護学部からは 2 名の学生がこのプログラムに参加した。
千葉大学看護学部より計 4 本(うち 3 本は IPERC から)の講義動画が提供された。講義の中で千葉大学看護学部の特徴ある教育として IPE プログラムについて発信しつつ、「日本の地域包括ケアシステム」(井出成美)、「日本及び千葉大学の看護教育」(酒井郁子)、「千葉大学看護学部のカリキュラムと実習」(臼井いづみ)という内容で日本の看護教育を紹介した。講演資料は英語で作成し、講演内容を中国語字幕付き(孫佳茹翻訳)の形で講義動画を先方に送付した。
これらの講義動画は 7 月 15 日 13:00~15:00 の時間に台北医学大学より配信され、台湾・インドネシア・日本・タイ・香港・オーストラリアから 92 名の看護系学生が視聴した。参加者の学校別内訳は下記の通りである。

Taipei Medical University(45)・Universitas Airlangga(9)・Chiba University(2)

Kanazawa University(1)・Universitas Indonesia(8)・Mahidol university(7)

The University of Hong Kong(5)・University of Wollongong(1)・Osaka University(3)

- ・ 群馬大学より IPE トレーニングコースの講義依頼
2022 年 8 月 23 日から 27 日まで実施された第 9 回群馬大学 IPE トレーニングコース(趣旨: 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース)の一環として、亥鼻 IPE プログラムを紹介した講義動画の依頼を受けた。講義は酒井郁子センター長をはじめ、IPERC 全体で対応し、「Development, Operation, and Future Expectation of Inohana IPE」というタイトルで、2022 年度の最新実施状況も反映した上、亥鼻 IPE 全体の紹介および受講者のレポート分析という内容で行った。8 月 24 日(水)17:00~17:50 に講義動画が配信され、フィリピン・ベトナム・韓国・モンゴル・インドネシア・タイ・ミャンマー・トルコ・中国、計 9 か国からの 27 名の参加者(うち受講者 22 名、オブザーバ 5 名)が視聴した。その後、受講者より学部間受講者グループ編成時の人数比の差が大きい場合の対処方法について質問を頂いた。IPERC より亥鼻 IPE Step1・2 を例に挙げて詳細に英語で解説文を作成し返答した。また、返答した内容が群馬大学を通じ受講者全員に共有が図られた。
- ・ IPE ガイドブック出版、最終段階へ
IPERC の教員および国内の IPE 関係者による書籍『これからの IPE(専門職連携教育)ガイド』(南江堂)の執筆活動が完了し、2023 年 6 月の刊行に向けて編集・校正作業段階に入っている。このガイドブックは専門職連携教育(IPE)の基本的な考え方と知識をまとめたテキストで、医療系専門職連携教育の基本及びカリキュラムの組み立てから演習・実習を効果的に進行させるための授業開発といった内

容となっている。本書の出版を通じて現場の教員が困難を乗り越え、自信をもって IPE 教育を構築・推進できるようになることを目指している。

- ・韓国ソウル国立大学にてセンター長が日本の IPE の状況についてプレゼンテーション
酒井郁子センター長と朝比奈真由美特任教授が、2022 年 12 月 8 日にソウル国立大学を訪問し、日本の IPE の実装状況と亥鼻 IPE プログラムの内容を紹介した。韓国では、これから IPE を実装していく動きが高まっているため、日本の IPE の状況を紹介し、今後、学生の IPE 交換留学や共同研究の可能性について話し合うベースを作ることになった。ソウル国立大学看護学部の Eun-young Sri 教授と Yeon-hwan Park 教授が出席した。

2) IPW の促進

(1) IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修の実施

- ・IPW ベーシック研修の目的：医療・保健・福祉・介護の各種機関で働く専門職連携を推進するための課題を持った実践者が、専門職連携実践の推進に必要な基礎的能力を高めることを目的とする。
- ・IPW マネジメント研修の目的：医療保健福祉の実践現場で専門職連携を推進するための課題を持った指導的立場・管理的立場の者が、専門職連携実践の推進に必要なマネジメント能力をたかめることを目的とする。本研修において、医療と介護の連携やチーム医療が求められている日本の現状を踏まえ、実践の現場での IPW 推進に向けた現任者研修計画案あるいはマネジメント計画案を立案・実践・評価する。
- ・【理論編】と【実践編】に整理して実施した。【理論編】は、e-learning システムを構築し、「専門職連携の基礎的知識」「チームについて」「対立の解決のアプローチ」の 3 つの講義動画を作成し、受講者が自己学習できるように整備した。
- ・【実践編】は、WHO の専門職連携実践能力の学習到達目標に沿って、下記 5 つのコースを設置し、プログラムを改善し、教材を整理した。
【職種間の理解】他職種間でお互いの専門性や職務を理解し、協働ワークを通じて連携実践能力を習得する。
【チーム内の効果的なコミュニケーション】自身のコミュニケーションの傾向と課題を知り、適切な意見伝達スキルを習得する。
【チームワークの促進スキル】チームメンバーのチームへの貢献やチームビルディング、リーダーシップフォロワーシップの能力を高める。
【多職種カンファレンス】多職種カンファレンスにおける基本動作を習得する。
【対立の解決】専門職間や専門職と患者・利用者間で起こりうる対立の構造を理解し協調的な解決がはかれる解決の方法を学ぶ。
- ・各研修の受講者は（資料 3）のとおりである。本研修の受講者の学習ニーズをとらえるため、所属機関の種類・職種・所属先のある都道府県に分けて、受講者の状況を整理した。
- ・IPW 実践編の実施直後のアンケートでは、とても満足 46.2%、満足 53.8%であった。

(2) 千葉大学医学部附属病院の新人研修や現任教育 IPE プログラムへの貢献

- ・4 月 1 日(金)、医学部附属病院新人研修を、附属病院の総合医療教育研修センターおよび看護部と協働して実施した。IPERC は IPW の単元を担当した。
- ・8 月 1 日(月)、総合医療教育研修センターの特定行為研修におけるチーム医療演習に協力し、情報伝達スキル、カンファレンスの基本動作、対立の解決のストラテジーについて演習を実施した。
- ・医師と看護師合同の採血演習に協力した。
- ・10 月 12 日(水)、看護部の看護師長研修にてオンラインで「チームとして機能するためのリーダーシップとメンバーシップの発揮」をテーマにワークショップを実施した。
- ・11 月 17 日(木)、中途採用者研修にて IPW をテーマにワークショップを実施した。
- ・R5 年から総合医療教育研修センター・キャリア開発室が統合することとなり、ここと協働して病院全体の IPW プログラムの開発を行うこととなった。

（３）千葉県からの委託事業として認知症専門職における多職種協働研修を実施

- ・本研修の目的は、認知症の人と家族の支援に携わる医療・介護・福祉等の専門職同士が、認知症に関わる現状や知識・情報を共有するとともに、お互いの役割や活動内容等を理解し、連携をとり協働しやすい関係を作ることである。
- ・研修は令和４年１２月１７日（土）と令和５年１月２９日（日）の２回実施し、１２２名が参加した。
- ・プログラムは、以下のとおりである。

- １．オリエンテーション
- ２．講義「認知症の人の理解とケア」
- ３．講義「専門職連携の基礎知識」
- ４．ワークショップ「アイスブレイク私の仕事紹介」
- ５．ワークショップ「効果的な情報伝達スキル」
- ６．ワークショップ「多職種カンファレンス」

講師：酒井郁子　　IPERC センター長
諏訪さゆり　看護学研究院長　教授
井出成美　看護学研究院　准教授
臼井いづみ　IPERC 特任講師
孫　佳茹　　IPERC 特任講師

- ・COVID-19 感染拡大防止のため、講義、ワークショップ共にオンラインで実施した。
- ・資料配布には Google ドライブのリンク先を知らせる方法を取った。
- ・受講者にアンケートを実施し、満足度と意見を尋ねた。オンラインでのミーティングに不慣れな場面もあったが多くの反響があった。全体を通しての研修の評価では、「あまり満足ではない」と「不満足」の評価は無く、高い満足度が得られた。

（４）保健医療福祉各種機関での多職種協働実践能力向上のための研修への協力

- ・IPERC 教員が実施した社会貢献活動を（資料４）に示す。
- ・都道府県看護協会など職能団体の主催する研修への協力依頼が多くあった。

３）政策提言

（１）健康関連専門職の基礎教育課程における専門職連携教育に関わる科目の開設や制度化への提言

- ・医療者教育の変化のなかで、医学教育・看護学教育・薬学教育のコアカリキュラムに IPE が位置づけられ、多くの大学等でカリキュラム改定の際に IPE が実装されつつあることを確認している。今後、カリキュラム評価の時期に入ることが予想され、カリキュラム評価にむけた提言のために準備が必要であると認識した。

3. 研究

1) IPE 研究の進化

(1) 医学部、看護学部、薬学部教員の IPE 研究のサポート

- ・酒井センター長が定期的あるいは不定期に、各学部の教員の IPE 研究の助言指導を行い、論文公表への支援を行った。
- ・他大学の教員も参画し、IPE 研究、IPW 研究に関するスタディミーティングを月 2 回のペースで実施した。
- ・IPERC 運営教員および IPERC 特任教員の科学研究費補助金獲得は、合計 7 件である。一覧を（資料 5）に示した。

(2) 学生の IPE 体験や実践者の IPW 体験の蓄積と IPW, IPE の理論化

- ・上記（1）のスタディミーティングの中で IPE や IPW の理論・実践・評価について学習する機会を持った。
- ・COVID-19 による IPE への影響について海外の動向を探った他、第 15 回日本保健医療福祉連携学会において、2018 年に行った看護学部のカリキュラム改変に伴う看護学部生の Step3 受講年次の変更が IPE の学習成果に与えた影響や Step2 の学習コンテンツの変更が学習成果に与えた影響について計 2 本の研究発表を行なった。
- ・IPERC が主導する「IPE プログラムの教育評価に関する研究」の一環として、2022 年度の Step1～4、そしてクリニカル IPE の受講生を対象とした研究データを収集した。亥鼻 IPE の教育プログラムの教育評価を行い、IPE プログラムの学習効果と教育方法の改善点を明確にするための取り組みをさらに進めた。

(3) 研究成果の発信

- ・〔原著および査読つき論文〕5 本、〔査読なし論文〕3 本、〔学会発表〕12 本、〔シンポジウム招聘〕19 回であった。詳細は（資料 7）に示した。
- ・臼井いづみ、井出成美、孫佳茹、飯野理恵、関根祐子、朝比奈真由美、酒井郁子(2022). 看護学部のカリキュラム改変が IPE の学習成果に与えた効果～学生の自己評価の分析から、第 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 学術集会長賞を受賞した。

4. 組織運営

1) 予算と人材の確保

(1) 研修事業による自己収入の獲得

- ・本年度は、研修事業の受講料にて 166.6 万円の自己収入を得た。

(2) 新たな事業費や研究助成金の確保

- ・IPERC 特任教員・兼務教員が IPE/IPW や専門職教育に関わる研究費として獲得し継続中の研究助成金を（資料 5）に示した。
- ・法人からの寄付金、事業委託費を（資料 6）に示す。

(3) クロスアポイントメント制度の活用などの検討による人材確保

- ・亥鼻高機能化構想の基金により特任講師 2 名の人件費を得られた。
- ・世界展開力強化事業 GRIP の採択により特任教員 1 名、事務補佐員 1 名の人件費を得た。
- ・GRIP 推進委員として、看護学研究院の専任教員 1 名のポストが得られた。

2) PDCA サイクル (plan-do-check-act cycle) に基づく組織運営

(1) 年間事業計画の策定と実施、評価

- ・第2期5か年計画（令和2～6年）の3年度目として、令和4年度事業計画を立て、事業運営を行った。実績をまとめ運営委員会に報告した。

(2) 外部評価委員会による評価と運営への反映

- ・第2期5か年計画（令和2～6年）の3年度目として、令和4年度事業計画を立て、事業運営を行った。実績をまとめ外部評価委員会に報告し評価を得る予定である。

(3) 運営委員会の開催

- ・ COVID-19 感染防止のため、オンラインによる会議を3回実施した。
第1回令和4年5月17日（Zoomによるオンライン会議）
第2回令和4年10月18日（Zoomによるオンライン会議）
第3回令和5年2月7日（Zoomによるオンライン会議）

(4) 教育実践研究部会の開催

- ・今後の CIPE に関する検討会議を開催した。令和4年8月30日、31日実施。
- ・令和5年度の玄鼻 IPE 日程および授業方法案作成について検討会議を実施した。令和4年10月7日実施。

3) IPERC の将来構想

(1) IPERC を含む総合教育棟の概算要求

- ・申請を行ったが獲得はできなかった。

(2) 専門職連携学の構築を目指した大学院における履修証明プログラムの導入や副専攻の設置などの検討

- ・世界展開力強化事業 GRIP の採択により、博士前期課程副専攻国際実践学 GRIP が立ち上がった。令和5年度からの開講にむけ、8単位分の科目のシラバス作成を行った。

IV. 外部評価委員会開催と外部評価委員による講評

1. 令和4年度(2022年度)外部評価委員会の開催

千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター外部評価委員会に関する内規に基づき、令和4年度外部評価委員会を計画した。COVID-19 拡大防止対策のため、Zoom によるオンライン会議として開催した。

日 時：令和5(2023)年3月13日(月) 16:00～17:30

会議出席者 (五十音順)

外部評価委員 5名 新井利民委員、大山良子委員、川崎由紀委員、川島啓二委員、渡邊秀臣委員

千葉大学関係者 21名

諏訪さゆり研究院長、酒井郁子センター長

(以下運営委員) (五十音順)

朝比奈真由美、天井響子、飯野理恵、石川雅之、石橋みゆき、井出成美、伊藤彰一、伊藤素行、上原知也、大塚将之、笠井大、菊田直美、鈴木紀行、関根祐子、相馬孝博、孫佳茹、中口俊哉、野崎章子、眞嶋朋子

2. 外部評価委員による講評

外部評価委員には、令和4年度の事業実績について、「A：計画より進捗している、B：計画通り進捗している、C：計画よりやや遅れがある、D：計画よりかなり遅れがある」の評価基準での評価と総合評価コメントをいただいた。外部評価委員からの評価コメント(原文のまま)を掲載する。

	IPERC 自己評価	外部評価委員評価			
		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
1. 教育	A	5名			
2. 実践・社会貢献	A	5名			
3. 研究	B	2名	3名		
4. 組織運営	A	5名			

【総合評価コメント】原文のまま（順不同）

A 委員	コロナ禍においても、すべての面で卓越した実績を積み重ねており、計画よりも進捗していると判断する。今後の発展への期待を込めて、次の2点をコメントしたい。 ①ICTを用いたグローバル IPE の展開と国内 IPE への応用 今年度実現ができなかった香港大学とのオンラインの IPE や、現在の GRIP で行われているプログラムは、グローバルな IPE、そして保健医療分野のみならず SDGs の下での多様な専攻の学生の IPE の実装という点で、非常に先駆的である。 今後は、このスキームや教育方法を応用して、国内の看護学・医学・薬学以外の学生が参画できるような IPE プログラムの実装に向けた取り組みを期待したい。 ②クリニカル IPE の方法論の社会実装 全国の医療機関等では多様な職種の実習を受け入れているが、各専門実習の中でクリニカル IPE が行われることは一つの理想形である。玄鼻 IPE のクリニカル IPE は、プログラムの発展や必修化へ向けた議論がある一方、様々な調整業務に伴い困難があることは想像に難くない。しかしその困難と克服方法は、全国の医療機関等でクリニカル IPE を実装する上での参考になりうる。これらの困難・調整・克服のプロセスを、社会実装の方法論としてとらえ、実践・社会貢献に生かすことは、日本の IPE の先頭に立つ千葉大学の次の課題であると考えます。今後の展開に期待したい。
B 委員	この数年は、コロナ禍で思うような活動ができない中、学生さんが学びたい事が少しでもできて良かったと思います。 私は、幼少の頃に学校に通うために病院に入院になり30年、そこで生活をしていました。今は、ヘルパーさんの支援を受けながら千葉市で自立生活をしています。 どんな重い障害があっても、自分の住み慣れた所や地域で暮らしたい！ そう思っている人がたくさんいる事を、知ってもらいたいですが、なかなかそう言う機会がありません。ですので、学生の皆さんが自宅に見学に来てくださったときは本当に嬉しかったです。 話変わってしまいましたが世の中には、色んな病気の方がいて、色んな悩みや苦しみがあります。介護、医療が連携してその悩みに対応する仕組みを作って、学生さんの教育として進んでいく事を望みます。
C 委員	地域で公衆衛生看護に取り組んでいる立場として、大学及び大学院教育で専門職連携を学んだ学生が卒業して、地域や医療機関等で活躍してくれることはとても頼もしく思います。 また、今年度は10月から世界展開力強化事業が始動され、グローバル IPE プログラムの開発の進展がみられ、グローバル化が進んでいます。 今後も専門職連携教育研究センターのミッションとして、4つの柱である「教育」「実践・社会貢献」「研究」「組織運営」が効果的に連動して、学内や医療機関内等に波及し地域全体で取組が推進していくことを願います。
D 委員	年々成果が積み上がり、我が国におけるIPE・IPWのトップランナーとして頼もしい限りである。教育・研究の両面において学外的にIPEの充実と普及を着実に進めていることが高く評価されることはむろんのこと、学内的に、大学院の副専攻に専門職連携が取り入れられたことは、高度化・複雑化が進む現代社会での大学改革という観点から、非常に大きな意味を持つのではないかと。高度に機能化した社会において、社会的課題をミスなく安全に解決し対策を実装化するための人材育成や研修プログラムの開発は、医療系に留まらず、求められるスキル・態度をはじめとして体系的に展開される必要がある。IPEプログラムが高等教育の制度的枠組の中で、より普遍化して展開することはその意味で望ましい。文科省の大学の世界的展開事業に採択されたこともその意味で弾みとなる。 一方で、上記の視点とは別に、従来は臨床研修中心であった大学病院において、病院発の IPE の可能性や、また地域における福祉を含む現場発の IPE 推進の可能性も十分に視野に入れられている。センター長の「教室 IPE だけでは成り立たず、世界のセンターもその方向性」との説明は、IPE の現状と課題を集約的に表現したものとして理解した。
E 委員	2022 年度の大きな成果は文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の GRIP Program の採択といえます。特に組織運営の大きな発展につながり、大学院教育の内容が充実に結びついていることが実感されました。教育に関しては、on-line のプログラムの利点、また対面の利点をよく評価され改善の工夫をされています。新たな IPE として国際展開が活発となっているのは GRIP program の具現化としてよくわかりました。実践・社会貢献事業では、活動の量、質とも増加していることがよく分かり、研修にも年々参加される方々が増えて、センターに対する社会の要請が高まっていることが実感されます。研究に関しては経費獲得が充実されています。一方、教育で on-line プログラムやクリニカル IPE 等、新しい取り組みを取入れて解析されているので論文として期待したいと思います。

3. 外部評価委員の講評のまとめ

世界展開力強化事業の獲得による GRIP Program のスタートを代表とする、グローバル IPE プログラムの開発と展開について、高く評価を受けた。また大学院教育の副専攻に専門職連携を取り入れたことに関しても大学改革としての観点からの評価をいただいた。

学部教育 IPE に関しては、コロナ禍での教育の工夫と、臨床参加型 IPE の今後の展開について評価と期待のコメントをいただいた。

また、社会貢献活動について、活動の量、質両面からの向上があることを評価いただいた。

世界展開力強化事業を採択されたことにより、IPERC の活動も転換期を迎えていると言える。大学教育、医療人育成に対する社会の要請に耳を傾け、目の前の課題の解決にさらに前進を進めたい。

VI. 資料

(資料1) 亥鼻 IPE 数値実績

年次	Step1					Step2				Step3					Step4				クリニカル IPE				合計							
	医学部	看護学部	薬学部	工学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他（他大生）	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計								
2007	97	86	85	-	268	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	268							
2008	100	81	83	-	264	97	83	83	263	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	527							
2009	109	84	80	-	273	97	83	83	263	97	85	43	-	225	-	-	-	-	-	-	-	-	761							
2010	109	84	80	-	273	108	83	77	268	102	78	50	-	230	95	89	41	225	-	-	-	-	996							
2011	113	84	86	-	283	119	86	84	289	103	84	39	-	226	102	76	43	221	-	-	-	-	1019							
2012	117	85	88	-	290	115	80	87	282	119	83	37	-	239	101	85	38	224	-	-	-	-	1035							
2013	118	84	88	-	290	116	86	89	291	123	83	44	-	250	123	85	35	243	-	-	-	-	1074							
2014	119	84	83	-	286	117	83	87	287	120	81	50	-	251	124	81	49	254	-	-	-	-	1078							
2015	121	83	87	-	291	116	85	83	284	130	83	46	16	275	113	83	42	238	4	4	3	11	1099							
2016	119	80	84	-	283	119	84	87	290	123	85	45	5	258	131	83	40	254	15	13	13	41	1126							
2017	118	84	86	54	342	117	80	84	281	125	80	45	5	255	124	84	40	248	17	17	16	50	1176							
2018	117	84	85	44	330	114	80	84	278	117	158	42	4	321	132	79	45	256	11	17	10	38	1223							
2019	123	82	89	46	340	116	81	85	282	122	81	55	3	261	118	160	51	329	14	14	17	45	1257							
2020	117	80	93	41	331	124	84	88	296	110	84	43	0	237	118	80	44	242	-	-	-	-	1106							
2021	116	82	95	50	343	113	77	93	283	129	77	57	0	263	109	81	41	231	8	12	9	29	1149							
2022	120	84	97	50	351	118	82	68	268	111	81	48	0	240	129	75	57	261	8	11	8	27	1147							
					4838						4205						3531						3226						241	16041

教員及び外部機関専門職 (総計 2157)

*医学部は附属病院医師含む。

**附属病院は医師以外

年次	Step1（教員、外部機関専門職）						Step2（教員、外部機関専門職）						Step3（教員、外部機関専門職）					
	* 医学部	看護学部	薬学部	工学部	その他	計	* 医学部	看護学部	薬学部	** 附属病院	外部機関	計	* 医学部	看護学部	薬学部	** 附属病院	外部機関	計
2007～2010	31	44	37	-		112	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2011	8	10	10	-		28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2012	8	11	9	-		28	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	0
2013	13	14	13	-		40	4	6	5		0	15	4	6	5	0	-	15
2014	12	15	15	-		42	5	5	7		0	17	4	10	6	3	40	63
2015	17	12	6	-		35	7	7	6		22	42	15	8	5	3	24	55
2016	16	10	7			33	6	6	7	2	1	22	7	13	6	3	1	30
2017	14	11	7	10		42	6	6	6	2	1	21	8	10	6	-	-	24
2018	12	9	6	12		39	7	5	5	1	0	18	9	9	6	-	-	24
2019	18	9	7	13		47	12	6	5	1	0	24	12	11	7	-	-	30
2020	5	16	7	3		31	4	16	5	0	0	25	11	15	8	-	-	34
2021	11	13	7	12	4	43	11	9	4	1	0	25	10	9	8	-	-	27
2022	15	16	6	14	4	55	10	8	5	0	0	23	12	14	7	-	-	33

(前頁続き表)

年次		Step4														クリニカル IPE							合計	
		附属病院														計								
		医学部	看護学部	薬学部	医師	看護師	薬剤師	作業療法士	理学療法士	言語聴覚士	社会福祉士	心理カウンセラー	遺伝カウンセラー	管理栄養士	外部機関	計	医学部	看護学部	薬学部	附属病院				計
		1	2	2	11	10	3	3	3	2	6	1	1	4		49	-	-	-	医師	看護師	薬剤師	-	49
2007~2010		1	2	2	11	10	3	3	3	2	6	1	1	4		49	-	-	-	-	-	-	-	49
2011		2	6	2	9	6	1	3	3	2	3	1	1	2	1	42	-	-	-	-	-	-	-	154
2012		3	4	2	11	7	3	2	3	1	5	1	1	4		47	-	-	-	-	-	-	-	75
2013		5	6	3	9	9	3	3	3	1	5	1	2	4		54	-	-	-	-	-	-	-	82
2014		3	5	3	10	9	3	3	3	1	4	1	1	4		50	-	-	-	-	-	-	-	120
2015		1	8	5	16	9	3	3	3	2	5	1	1	4		61	2	4	1	3	2	0	12	195
2016		1	9	7	14	9	4	3	3	2	7	0	2	4		65	2	5	2	13	22	19	63	260
2017		2	7	6	13	9	5	3	3	1	7	1	2	4		63	2	8	3	14	20	14	61	209
2018		1	10	5	15	10	5	4	4	2	4	1	2	4		67	2	8	2	9	15	12	48	196
2019		2	7	5	16	11	5	3	3	2	7	1	0	4		66	2	8	3	13	13	15	54	221
2020		3	12	5	11	11	5	2	3	1	7	1	1	3		65	-	-	-	-	-	-	-	154
2021		8	8	7	10	11	5	3	3	1	7	2	1	4		70	3	7	2	9	15	10	46	211
2022		9	10	6	11	13	6	3	5	1	7	1	2	3		77	3	5	3	10	9	13	43	231

2157

協力 TA [大学院生] (総計 301 名)

年次	Step1				Step2				Step3				Step4					合計
	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	計	医学部	看護学部	薬学部	その他	計	
2007~2010	18	37	34	89	1	5	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	95
2011	1	17	2	20	2	7	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
2012	0	9	0	9	4	2	0	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
2013	4	4	3	11	6	3	0	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
2014	0	5	2	7	0	3	2	5	0	2	0	1	1	2	1		4	19
2015	1	4	0	5	2	2	0	4	2	1	0	1	2	3	1		6	19
2016	1	3	0	4	0	1	1	2	1	0	0	0	1	3	0	1	5	12
2017	1	2	4	7	1	0	5	6	1	2	2	0	4	1	4	0	9	27
2018	0	2	4	6	2	0	4	6	0	1	2	0	0	2	6	0	8	23
2019	3	7	2	12	3	6	3	12	0	3	2	0	3	0	2	1	6	35
2020	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2021	0	3	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
2022	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

301

実習協力施設（総計 784 施設）

年次	Step1		Step2							クリニック IPE		合計
	病院	福祉施設	病院	診療所	薬局	ステーション 訪問看護	回復期リハビリ テーション病棟	保健機関・ 介護福祉施設	計	診療科	附属病院	
2007~2010	24	0	15	32	52	25	-	21	145	-	-	169
2011	6	0	5	11	15	11	-	8	50	-	-	56
2012	6	0	5	9	22	9	-	4	49	-	-	55
2013	6	0	6	12	21	6	-	3	48	-	-	54
2014	7	0	6	11	17	6	3	2	45	-	-	52
2015	6	0	6	11	15	5	4	3	44	2	-	52
2016	6	0	7	11	15	5	6	3	47	10	-	63
2017	7	0	11	10	15	5	3	5	49	12	-	68
2018	7	0	7	11	13	5	3	3	42	9	-	58
2019	8	0	5	14	17	5	3	2	46	10	-	64
2020	0	1	1	5	5	1	0	1	13	-	-	14
2021	2	1	5	6	11	4	2	2	30	6	-	39
2022	2	0	5	6	13	5	2	1	32	6	-	40

784

FD/SD の参加者数（総計 1863 名） *2016～亥鼻 FD プロジェクト開始

年次	Step1	Step2		Step3	Step4	*その他	合計
		実習施設 担当者	フ ォ ー メ ー タ ー				
2007～2010	88	44	-	-	28	105	265
2011	17	33	-	-	23	-	73
2012	17	31	-	-	17	-	65
2013	20	17	-	-	25	-	62
2014	31	15	-	61	25	-	132
2015	10	28	43	52	24	22	179
2016	21	42	-	29	35	54	181
2017	23	21	-	21	29	134	228
2018	22	36	-	16	25	43	142
2019	17	28	-	22	26	36	129
2020					29	35	64
2021	29	49	-			21	99
2022	**55	42	-	**32	**77	38	244

注：**はメールで資料配布

1863

授業に協力いただいた
た患者団体(総計 88
団体)

2007～2010	48
2011	17
2012	2
2013	2
2014	2
2015	2
2016	2
2017	2
2018	2
2019	2
2020	3
2021	2
2022	2

88

(資料2) GRIP 事業

年		学生交換数		学生交換国		展開段階		備考
年次	年度	派遣学生数	受入学生数	学生の派遣国	学生の受入国	PHASE	STEP	
初	2022	10 名 内訳： 医学部 3 名 薬学部 1 名 看護学部 3 名 看護学研究院 2 名 国際教養学部 1 名	10 名 Symbiosis International (Deemed) University Symbiosis College of Nursing (SCON)	インド	インド	1 GRIP モデルの 構築(2022-2023 年中間評価ま で)	1 教育、教育ロジス ティックス、教育 プログラムの仕組 みづくり シンバイオシス大 学で社会課題解決 演習およびバーチ ャルワークショップ のトライアル	SIU との大学間 協定締結
	期間	2023.2.13-2.22	2023.3.1-3.9					

(資料3) IPERC 主催研修受講者

IPW カリキュラムマネジメント & 授業開発研修の参加者 9 名

所属	領域	都道府県	人数
大学	看護・医療系	茨城県	1
		東京都	1
		和歌山県	1
		愛知県	1
	教育系	北海道	1
専門学校	看護系	茨城県	1
		埼玉県	1
		福岡県	1

IPW ベーシック研修、IPW マネジメント研修の参加者

【理論編】 32 名

所属	職種	都道府県	人数
医療機関	医師	富山県	1
		佐賀県	1
		鳥取県	1
		長崎県	1
	看護職	東京都	5
		千葉県	4
		神奈川県	1
		秋田県	1
		福岡県	1
		佐賀県	1
	理学療法士	東京都	1
		神奈川県	1
	救急救命士(救急コーディネーター)	神奈川県	1
	管理栄養士	東京都	1
	社会福祉士	東京都	1
	精神保健福祉士	東京都	1
	相談支援専門員	東京都	1
	事務職	茨城県	1
大学・短期大学・専門学校	看護学	茨城県	2
		東京都	1
		静岡県	1
		和歌山県	1
その他	介護福祉士	千葉県	1
	保健師	千葉県	1

【IPW ベーシック研修 実践編】 51 名

職種間の理解 10 名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	東京都	1	7
		神奈川県	1	
		福岡県	1	
	理学療法士	東京都	1	
		神奈川県	1	
	社会福祉士	東京都	1	
	管理栄養士	東京都	1	
大学・専門学校	教員	茨城県	1	3
	保健師	神奈川県	1	
		和歌山県	1	

多職種カンファレンス 10 名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	東京都	1	7
		神奈川県	1	
		福岡県	1	
	理学療法士	東京都	1	
		神奈川県	1	
	社会福祉士	東京都	1	
	管理栄養士	東京都	1	
大学・専門学校	看護師	岐阜県	1	3
	保健師	神奈川県	1	
		和歌山県	1	

チーム内の効果的なコミュニケーション 11 名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	東京都	1	8
		神奈川県	1	
		福岡県	1	
		千葉県	1	
	理学療法士	東京都	1	
		神奈川県	1	
	社会福祉士	東京都	1	
	管理栄養士	東京都	1	
大学・専門学校	看護師	岐阜県	1	3
	保健師	神奈川県	1	
		和歌山県	1	

対立の解決 10 名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	東京都	1	7
		神奈川県	1	
		福岡県	1	
	理学療法士	東京都	1	
		神奈川県	1	
	社会福祉士	東京都	1	
	管理栄養士	東京都	1	
大学・専門学校	看護師	岐阜県	1	3
	保健師	神奈川県	1	
		和歌山県	1	

チームワークの促進スキル 10 名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	東京都	1	7
		神奈川県	1	
		福岡県	1	
	理学療法士	東京都	1	
		神奈川県	1	
	社会福祉士	東京都	1	
	管理栄養士	東京都	1	
大学・専門学校	看護師	岐阜県	1	3
	保健師	神奈川県	1	
		和歌山県	1	

【IPW マネジメント研修 実践編】 6 名

所属	職種	都道府県	人数	計
医療機関	看護師	秋田県	1	6
		神奈川県	1	
		東京都	1	
		福岡県	1	
		佐賀県	1	
	医師	佐賀県	1	

(資料4) 地域貢献事業実績
【国内】

	依頼内 容の種 類	依頼主 種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
1	事業委 託	行政機 関	千葉県健康福 祉部高齢者福 祉課	受託事業	認知症にかかわる専門職の多職種 協働研修	2022.12.17 2023.1.29	9:30- 16:00	オンライン	酒井郁子センター長 諏訪さゆり教授 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師
2	主催事 業		IPERC	主催事業	IPE カリキュラムマネジメント&授業 開発研修	2022.8.20 2022.11.23	9:00- 16:00	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師
3	主催事 業		IPERC	主催事業	IPW ベーシック研修・マネジメント研 修【理論編】	2022.5.1～ 2023.1.31		オンライン(オ ンデマンド)	酒井郁子センター長 井出成美准教授
4	主催事 業		IPERC	主催事業	IPW ベーシック研修実践編	2022.10.11 2022.10.25 2022.11.8 2022.11.29 2022.12.13	17:00- 20:00	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師
5	主催事 業		IPERC	主催事業	IPW マネジメント研修実践編	2023.1.22	9:00- 16:00	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師
6	コンサル (その他)	他大学	岡山大学大学 院医歯薬学総 合研究科 医 療教育センタ ー	医療教育センター運 営会議	専門職連携教育に関するコンサル テーション	2022.4.8		オンライン	酒井郁子センター長
7	講師派 遣	保健医 療福祉 機関	公益社団法人 地域医療振興 協会 NP・NDC 研修センター	JADECOM 特定行為 研修修了者の育成 配置活用に関する WEB シンポジウム	「診る」と「看る」の力をつけた看護の 可能性-特定行為研修修了者の活 用ガイドラインの提案- 講演3; 特定行為研修修了者の活用 ガイドラインの紹介	2022.5.21	15:05- 15:50	オンライン	酒井郁子センター長

	依頼内 容の種 類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
8	講師派遣	職能団体	東京都看護協会	認定看護管理者教育 課程ファーストレベル第1回	教育目的：看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。	2022.5.30 2022.11.28	9:30-16:30	東京都看護協会新会館	酒井郁子センター長
9	講師派遣	職能団体	千葉県看護協会	令和4年度生涯教育計画に基づく研修会	研修会名：「高齢者の起こりやすい機能低下と生活適応を支える看護」	2022.7.8	13:15-16:15	オンライン	酒井郁子センター長
10	講師派遣	その他	フロムページ	高校生向け受験ナビ講義	超高齢社会で求められるコア ポレーション力、質疑応答	2022.7.9		オンライン	兼務教員 井出成美
11	講師派遣	他大学	藤田医科大学 アセンブリ教育 センター	教員 FD	特別講演「段階的・系統的な専門職連携教育の到達目標と評価方法」 全体講評 ① 玄鼻 IPE の沿革と概要 ② ステップ1から4、CIPE ことの目的、目標、評価と評価に基づいた改善の実際 ③ 全体評価と玄鼻 IPE のインパクト	2022.7.24	9:00-16:30	藤田医科大学 学豊明キャンパス	酒井郁子センター長
12	講師派遣	学会	第54回日本医学教育学会	第54回日本医学教育学会大会特別シンポジウム	多職種連携教育の潮流とそのインパクトー今後の展望と可能性	2022.8.5	10:50-12:20	Gメッセ群馬 (群馬県)	酒井郁子センター長
13	講師派遣	大学以外の 教育機関	茨城県さぬ看護専門学校	茨城県看護教員連絡会講演	専門基礎教育での IPE の実際と課題	2022.8.6	10:00-12:00	ホテルグラン ド東雲 (茨城県)	酒井郁子センター長
14	講師派遣	他大学	横浜市立大学 医学教育センター 一・医学科・看護学科	横浜市立大学医学 科・看護学科 同 FD	多職種連携教育 ・玄鼻 IPE の15年の歩みと専門職連携学習研究センター (IPERC)を中心としておこなわれる自立した医療組織人としてのキャリア育成能力取得のための多職種連携教育の実際 ・多職種連携教育実施にむけたアドバイス	2022.8.8	13:30-16:00	オンライン	酒井郁子センター長

	依頼内容 の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
15	講師派遣	学会	日本看護管理学会	第26回日本看護管理学会学術集會 インフォメーション・ エクスチェンジ	複数の特定行為研修修了者を 組織に導入し活用するための ガイドの紹介	2022.8.19	15:00-16:00	ハイブリッド型 福岡国際会議 場・マリニメッ セB	酒井郁子センター長
16	講師派遣	他大学	群馬大学大学院 保健学研究科	第9回群馬大学 IP Eトレーニング 2022	西太平洋地域を中心とした途 上国での多職種連携教育の力 リキュラム確定並びに改善を目 的とした教育者向け IPE トレー ニングコース	2022.8.24	17:00-17:50	オンライン	酒井郁子センター長
17	講師派遣	その他	神奈川県立保健 福祉大学	研修講師	多職種シナリオの作成のコツ 基本と留意点	2022.9.2	15:00-17:00	オンライン	特任 臼井いづみ
18	講師派遣	職能団体	千葉県看護協会	第21回認定看護 管理者教育課程セ カンドレベル	統合演習 II	2022.9.5	9:30-12:30	千葉県看護協 会	酒井郁子センター長
19	講師派遣	大学以外の 教育機関	千葉県立佐倉高 校	模擬大学授業	国際保健と看護-Global Health and Nursing	2022.9.20	13:25-15:35	千葉県立佐倉 高校	野崎 章子
20	講師派遣	職能団体	岩手県看護協会	令和4年度訪問看 護事業所・医療機 関等に勤務する看 護職員の相互研修	医療と介護・地域をつなぐ連携 の実際～豊かに生きることを支 えるために～	2022.10.4	10:00-16:00	岩手県看護研 修センター	酒井郁子センター長
21	講師派遣	学内	千葉大学医学部 附属病院	第3回看護師長研 修	成果が出せるチームとして機 能するためのリーダーシップと メンバースhipの発揮	2022.10.12	15:50-16:30	オンライン	酒井郁子センター長 井出成美、臼井い づみ、孫佳茹
22	講師派遣	学会	第20回日本神 経理学療法学会 学術大会	共催シンポジウム IV（日本看護科学 学会共催）	身体性変容から生きにくさを探 る「回復期にある脳卒中患者 の生きにくさの様相とケア	2022.10.16	10:10-12:10	大阪国際会議 場（グランキュ ーブ大阪）	酒井郁子センター長
23	講師派遣	保健医療福 祉機関	金沢医科大学病 院 キャリア支援 センター	令和4年度 特定 行為研修フォローア ップ事業	特定行為研修修了看護師の組 織的配置・活用実現のために 特定行為研修修了看護師の組 織的配置・活用ガイドの概説	2022.10.22	10:00-12:00	オンライン（同 時双方向）	酒井郁子センター長

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
24	講師派遣	職能団体	東京都看護協会	看護師職能Ⅱ委員会	特定行為制度の基本的な理解と修了者の活用～看護管理者の役割～	2022.10.22	13:30-16:30	オンライン	酒井郁子センター長
25	講師派遣	職能団体	回復期リハビリテーション病棟協会	2022年度回復期リハ看護認定コース第15期	看護とリハビリテーションの考え方 QOLの考え方と評価 生活の再構築と自立支援	2022.11.2	9:00-14:30	オンライン	酒井郁子センター長
26	講師派遣	職能団体	青森県看護協会	青森県介護従事者確保対策事業補助事業令和4年度「介護施設のための看護力推進事業」	高齢者施設で働く看護部門の責任者のマネジメント	2022.11.15	13:00-15:00	オンライン	酒井郁子センター長
27	講師派遣	学会	日本国際看護学会	研修講師	「精神保健と国際看護学」同学会の研修会にて、希望者を対象とした研修会の講師	2022.11.22	13:00-15:00	オンライン	野崎 章子
28	講師派遣	職能団体	神奈川県看護協会	令和4(2022)年度介護保険施設等看護研修Ⅲ	介護保険施設での看護管理者としての役割と責務	2022.12.1	9:30-12:30	オンライン	酒井郁子センター長
29	講師派遣	職能団体	東京都看護協会	東京都受託事業「令和4年度東京都看護師等キャリアアップ支援事業」	特定行為研修修了者の活動を支える組織的配置と仕組みづくり	2023.1.7	13:00-14:00	オンライン	酒井郁子センター長
30	講師派遣	職能団体	北関東救急看護研究会	北関東救急看護研究会「教育セミナー」	救急看護領域の特定行為と看護師の役割拡大	2023.1.28	14:00-16:00	オンライン	酒井郁子センター長
31	その他	行政機関	厚生労働省医政局	専門委員	医道審議会専門委員(保健師助産師看護師)				酒井郁子センター長
32	講師派遣	職能団体	EAFONS 第26回東アジア看護学研究者フォーラム	ワークショップ	Promoting implementation of Evidence-Based Practice: Asian JBI Centre Initiatives	2023.3.10	13:00-14:30	東京大学医学図書館	酒井郁子センター長

	依頼内容 の種類	依頼主 別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
33	講師派遣	他大学	群馬大学医学部	講演	プロフェッションナリズム・カルチャーを醸成しよう～学生や研修医が優れた医師、研究者を目指すために～	2023.1.10	16:30-18:00	オンライン	特任 朝比奈真由美
34	講師派遣	他大学	京都府病院協会・ 京都府立以下大学 共催	看護師特定行為 研修セミナー	特定行為看護師としての役割 開発と発展を目指して	2023.2.18	13:30-15:30	ハイブリッド 形式 京都 府立医科大学 学及びオン ライン	酒井郁子センター長
35	講師派遣	保健医療 福祉機関	滋賀医科大学医学 部附属病院看護師 特定行為研修セン ター	第7回滋賀医科 大学特定行為フ ォーラム	専門性を発揮するタスクシフト/ シェアを支援する研修修了者の 組織的配置・活用	2023.3.21	13:00-17:00	オンライン	酒井郁子センター長
36	講師派遣	学会	日本看護シミュレ ーションラーニング 学会	研修講師	看護シミュレーション教育指導 者養成研修会ベータシグコース	2022.7.2 2022.12.18	9:30-17:30	オンライン	特任 臼井いづみ
37	講師派遣	学会	日本看護シミュレ ーションラーニング 学会	研修講師	看護シミュレーション教育指導 者養成研修会アドバンスコース	2023.2.11	9:30-15:30	オンライン	特任 臼井いづみ
38	講師派遣	その他	千葉大学看護学部 母性看護学教育研 究分野同窓会	活動報告	コロナ禍での IPE 教育 Online で実施する IPE	2022.10.8	15:45-16:15	オンライン	特任 臼井いづみ
39	講師派遣	その他	NPO 法人 周生期 医療支援機構	研修講師	①ALSO トレーニングコース ②ALSO トレーニングコース ③ALSO トレーニングコース ④ALSO インストラクターコース ⑤ALSO 更新コース ⑥ALSO 更新コース ⑦ALSO インストラクターコース ⑧ALSO 更新コース	①2022.4.2 ②2022.6.1 ③2022.8.2 ④2022.9.2 ⑤2022.11.6 ⑥2023.1.2 ⑦2023.2.4 ⑧2023.3.1	8:45-18:00	オンライン	特任 臼井いづみ

	依頼内容の種類	依頼主種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
40	コンサル (その他)	その他	公益社団法人全国助産師教育協議会 シミュレーション小委員会	アドバイザー	全国助産師教育協議会シミュレーション小委員会が作成するシミュレーションナリオについての助言	①2022.6.13 ②2022.8.22 ③2022.9.20 ④2022.10.24 ⑤2022.11.21 ⑥2022.12.19 ⑦2023.1.23	19:00-20:30	オンライン	特任 臼井いづみ
41	講師派遣	大学以外の教育機関	一般財団法人 青少年国際交流推進センター	清水台小学校国際理解授業講義	国際理解教育支援プログラム(清水台小学校)外国人講師	2023.03.10	10:40-12:30	品川区 清水台 小学校	特任 孫佳茹
42	講師派遣	保健医療福祉機関	滋賀医科大学医学部附属病院看護師特定行為研修センター	第7回滋賀医科大学特定行為研修フォーラム	専門性を発揮するタスクシフト/シェアを支援する研修修了者の組織的配置・活用	2023.3.21	13:00-17:00	オンライン	酒井郁子センター長
43	CICS29	保健医療福祉機関	台東区立台東病院 台東区立老人保健施設千束 (千葉大学大学院 看護学研究科博士前期課程看護学専攻 看護実践学コース特定看護学プログラム)	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾 ねがい	2022.5.5			酒井郁子センター長
44	CICS29	保健医療福祉機関	東北大学病院臨床試験データセンター ー 特任講師 SCDM 日本支部 共同代表 日本循環器学会 認定循環器専門医 認定臨床データマネジャー (CCDM)	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾 ねがい	2022.12.6			酒井郁子センター長
45	CICS29	保健医療福祉機関	徳島大学病院	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾 ねがい	2023.2.4			酒井郁子センター長
46	CICS29	他大学	神戸市看護科大学大学院 看護学研究科 博士前期課程 実践看護学領域 慢性病看護学分野 CNSコース	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾 ねがい	2023.2.15			酒井郁子センター長
47	CICS29	他大学	弘前大学大学院	CICS29 を使用したい	調査研究に CICS29 を使用することへの許諾 ねがい	2023.2.27			酒井郁子センター長

48	CICS29	他大学	佛教大学 保健医療技術学部	CICS29 を使 用したい	CICS29 を 使用することへの許諾 ねがい	2023.3.1			酒井郁子センター長
49	CICS29	他大学	独立行政法人国立病院機構 あきた病院	CICS29 を使 用したい	CICS29 を 使用することへの許諾 ねがい	2023.3.24			酒井郁子センター長

【海外】

	依頼内容 の種類	依頼主 種別	依頼主	案件	内容	日にち	時間帯	場所	対応者
1	講師派遣	他大学	TMUN 台湾医科大学	TMUN Online Exchange Program	Chiba University School of Nursing Curriculum and Clinical Practicum.	2022.7.15		オンライン	臼井いづみ特任講師
2	講師派遣	他大学	TMUN 台湾医科大学	TMUN Online Exchange Program	The Community-based Integrated Care Systems for the older person in Japan.	2022.7.15		オンライン	井出成美准教授
3	講師派遣	他大学	TMUN 台湾医科大学	TMUN Online Exchange Program	The Education System of the Nursing Profession in Japan and an introduction of the Chiba University School of Nursing and Graduate School of Nursing.	2022.7.15		オンライン	酒井郁子センター長
4	コンサル(カ リキュラム)	他大学	台北医科大学	交換留学プログラム について情報収集	看護学部長への表敬訪問と交換留学プロ グラム開発についての打ち合わせ	2023.3.7-8	9:30- 15:00	千葉大学 亥鼻キャ ンパス	酒井郁子センター長 井出成美准教授 臼井いづみ特任講師 孫佳茹特任講師
5	コンサル(カ リキュラム)	他大学	台北医科大学	交換留学プログラム 開発についての打ち 合わせ	交換留学プログラム開発についての打ち 合わせ	2023.3.12- 15		台北医科 大学(台 湾)	特任 臼井いづみ

(資料5) IPERC 特任教員・兼務教員の獲得している研究助成金 (いずれも継続)

No	研究代表者	研究課題	助成金の種類
1	朝比奈真由美	英国大学と協働で開発するグローバル・地域包括ケア IPE プログラムの構築	科研基盤研究 C
2	石橋みゆき	Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発	科研基盤研究 B
3	井出成美	学生の専門職間連携能力の発展を促進する IPE プログラムの実装に有用な学習理論開発	科研基盤研究 C
4	伊藤彰一	専門職連携のための専門職連携による FD 実践のための基盤研究とプログラム開発	科研基盤研究 C
5	臼井いづみ	災害対策本部で必要なりーダーシップを育成するシミュレーション教育プログラムの開発	科研基盤研究 C
6	酒井郁子	回復期リハビリテーション病棟における EBP 実装プログラムの検証	科研基盤研究 B
7	関根祐子	舌圧値を活用した口腔機能評価に基づく薬剤師による口腔教育・服薬支援システムの構築	科研基盤研究 C

(資料6) IPERC 外部からの寄付金及び委託費

寄付金

項 目	交付額	備 考
ユニコ (2018 年度)	1,500,000	来年度繰越可能
社会医療法人 関愛会 (2019 年度)	200,000	来年度繰越可能
社会福祉法人りべるたす (2020 年度)	600,000	来年度繰越可能
	2,300,000	

委託費

項 目	交付額	備 考
千葉県 (認知症にかかわる専門職の多職種協働研修)	816,000	今年度使い切り
藤田医科大学 (藤田医科大学アセンブリ教育ワークショップ)	70,000	今年度使い切り
	886,000	

(資料 7) 研究業績

特任教員および兼務教員の研究業績（下線は兼務教員、二重下線は特任教員）を以下に示す。

〔原著〕

1. Ishikawa, T., Sakai, I., Amemiya, A., Komatsu, R., Sakuraba, S., & Isono, S. (2022). Long-term body weight change assessed by non-contact load cells under the bed in older people with and without eating assistance: a preliminary study. *Scientific Reports*, 12(1), 1-5. <https://doi.org/10.1038/s41598-022-12291-5>
2. Shikino, K., Ide, N., Kubota, Y., Ishii, I., Ito, S., Ikusaka, M., Sakai, I. (2022) Effective situation-based delirium simulation training using flipped classroom approach to improve interprofessional collaborative practice competency: a mixed-methods study. *BMC Medical Education*, 22(1), 1-11. <https://doi.org/10.1186/s12909-022-03484-7>
3. 野崎章子, 森内加奈恵, 小原泉, 吉村健佑(2023). 特定機能病院有床精神科部門の特性-病床・医師数および地理的分布ならびに診療内容に関する記述的研究-. 総合病院精神医学. In press,
4. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., & Okumura - Hiroshige, A. (2023). Factors affecting the critical appraisal of research articles in Evidence - Based practices by advanced practice nurses: A descriptive qualitative study. *Nursing Open*. <https://doi.org/10.1002/nop2.1628>. (in press) 1.25.
5. 山本武志, 酒井郁子 (2023). 専門職連携実践コンピテンシーに関連する要因の検討:特定機能病院の医療専門職を対象とした調査から. 札幌保健科学雑誌, 12,21-27,2023

〔論文等(査読あり)〕

6. Yamakawa, M., Kanamori, T., Fukahori, H., Sakai, I. (2022). Sustainable nurse-led care for people with dementia including mild cognitive impairment and their family in an ambulatory care setting: A scoping review. *International journal of nursing practice*, 28(3), e13008. <https://doi.org/10.1111/ijn.13008>
7. 伊藤裕佳, 山本武志, 井出成美, 酒井郁子. (2022). 看護師等学校養成所における専門職連携教育の実装状況と課題. 日本保健医療福祉連携教育学会学術誌・保健医療福祉連携. 15(1) 2-10.
8. 佐伯昌俊, 小松亮, 西宮岳, 酒井郁子 (In press). 急性期病院において複数の特定行為研修修了者の活動を支援する管理実践の要素—管理者へのインタビューによる質的研究. 看護管理学会誌.

〔論文等(査読なし)〕

9. 酒井郁子(2022). 【多職種連携のためのタスクシフティングを考える-効率的な医療提供のために】特定行為研修修了看護師, カレントセラピー, 40(4), 362-367.
10. 酒井郁子(2022). 多職種連携教育の潮流とそのインパクト-今後の展望と可能性- 総合大学必修積み上げ型 IPE の運営拠点としての専門職連携教育研究センターの課題と展望. 医学教育, 53 (Suppl). 22.
11. 井出成美(2022). 文化的視点からみた専門職連携教育—他職種を理解することとは—. 文化看護学会誌, 14(1), 58-62.
12. 酒井郁子 (2023). 特集 老年看護学の新しい姿 総説 2. 老年看護における教育. 老年医学, 61(3), 193-197

〔報告書〕

13. 酒井郁子:特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査. 令

和 2 年度～令和 3 年度 厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 地域医療基盤開発推進研究 総括報告書,2021.

14. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 臼井いづみ, 孫佳茹, 天井響子, 富永嘉子, 長谷川容佳, 佐野朋子, 高野佳奈: 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和 4 年度事業報告書, 2023.
15. 秋山智弥, 荒木暁子, 酒井郁子, 谷口陽子, 禰屋文恵, 美代賢吾, 山田雅子: 令和 4 年度厚生労働省委託事業 人生 100 年時代の看護職キャリア継続支援ツール作成事業 事業実施報告書, 2023.

〔単行書〕

16. 天井響子: 第 13 章 摂食障害・第 18 章 パニックおよび広場恐怖症. 川本哲也・喜入暁 (編), 進化精神病理学, 福村出版, 2023.

〔学会発表抄録〕

17. 藤田冬子, 辻村真由子, 村松真澄, 黒河内仙奈, 伊藤裕佳, 福井小紀子, 酒井郁子 (2022). 特別養護老人ホーム等における入居者のエンドオブライフを支えるケアプロセスとの様相. 日本老年看護学会第 27 回学術集会抄録集, 170.
18. 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2022). 看護学部のカリキュラム改変が IPE の学習成果に与えた効果～学生の自己評価の分析から. 第 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 22.
19. 森下裕咲子, 大浦祐矢, 小山博史, 臼井いづみ, 野村行弘, 中口俊哉 (2022.8.27). 多重課題シミュレーションに向けた目の応答による認知負荷量推定手法の検討. 第 21 回日本 VR 医学会学術大会. 名古屋.
20. 孫佳茹, 井出成美, 臼井いづみ, 朝比奈真由美, 飯野理恵, 関根祐子, 酒井郁子 (2022). 亥鼻 IPE 「Step2」のフードバック演習導入によるグループ活動評価の変化. 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 48.
21. Nosaki, A., & Noji, A. (2022, August 3-6). A Comparison of the Descriptions of Culture in the Fields of Psychiatry and Nursing: A Scoping Review Protocol. 22nd WPA World Congress of Psychiatry, Bangkok, Thailand(ハイブリッド開催)
22. 野地有子, 野崎章子 (2022, 8 月 27 日～9 月 18 日). 病院と看護の国際化ガイドラインの検討-国内外指針と看護職の経験知の集約から-. 千葉看護学会第 28 回学術集会, (オンライン開催)
23. 天井響子 (2022.9.8～11). 中学 3 年間の学校適応変化と内的保護因子との関連. 日本心理学会第 86 回大会抄録集, 2PM-075-PO.
24. Fujiwara, N., Kohara, I., Yamamoto, M., Tamaki, S., Yabuki, M., Nakahama, H., Kojima, C., Nosaki, A., Tashiro, S., Yoshimura, K., Fujiwara, K. (2022, October 17-19). *Development of learning program to nurses supporting patients' decision making in cancer clinical trials; the results of a 2nd-pilot study*. IACRN 14th Annual Conference, Atlanta, USA
25. Noji, A., Kamishima, S., Nosaki, A., Iijima, S., Mizobe, A., Kondo, M., Kotera, S. (2023, March 10-11). *Internationalization Guidelines to enhance Nurses' Cultural Competence and Hospital Systems*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, Japan
26. Yai, M., Nosaki, A. (2023, March 10-11). Social participation of people with adolescent-onset mental disorders who experienced social withdrawal: A descriptive study of narratives. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, Japan
27. 天井響子, 清河幸子 (2023.3.3-5). 困難を克服した他者の動画は中学生の内的保護因子を高めるか. 日本発達心理学会第 34 回大会抄録集, in press.
28. 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, 酒井郁子 (2023.3.19). IPE 最終段階プログラム終了後の

〔シンポジウム・招聘講演〕

29. 酒井郁子 (2022). 公益社団法人地域医療振興協会 NP・NDC 研修センター JADECOM 特定行為研修修了者の育成配置活用に関する WEB シンポジウム 「診る」と「見る」の力をつけた看護の可能性-特定行為研修修了者の活用ガイドラインの提案-講演 3:特定行為研修修了者の活用ガイドラインの紹介 (オンライン)
30. 孫佳茹.(2022). 「童子軍 (ボーイスカウト)」 史研究—中国近代教育史に位置付ける意義—,ボーイスカウト日本連盟創立 100 周年記念 2022 年度全国大会.2022 年 5 月 28 日. (オンライン)
31. 酒井郁子 (2022). シンポジウム 多職種連携教育の潮流とそのインパクトー 今後の展望と可能性. 総合大学必修積み上げ型 IPE の運営拠点としての専門職連携教育研究センターの課題と展望. 第 54 回日本医学教育学会. G メッセ群馬
32. 酒井郁子 (2022). 共催シンポジウムⅣ (日本看護科学学会共催) 身体性変容から生きにくさを探る. 「回復期にある脳卒中患者の生きにくさの様相とケア」.第 20 回日本神経理学療法学会学術大会.23.
33. 酒井郁子, 北川裕利, 中井智子, 山下祐貴, 藤谷茂樹, 鈴木靖子, 山本則子, 山本武志, 西宮岳, 佐伯昌俊 (2022). インフォメーション・エクステンジ 複数の特定行為研修修了者を組織に導入し活用するためのガイドの紹介. 第 26 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 203.
34. 深堀浩樹, 福井小紀子, 森恵美, 桶水理恵, 五十嵐歩, 大江真琴, 大久保暢子, 柏木公一, 小池智子, 小玉淑臣, 酒井郁子, 新福洋子, 武村雪絵, 友滝愛(2022). 交流集会 看護学研究の発展を目指して: 大型研究の準備・マネジメント・組織づくりから学ぼう!. 第 42 回日本看護科学学会学術集会. 2022 年 12 月 3 日(土) - 4 日(日), 広島.
35. Sakai, I, JIaru S.(2022). Chiba University Inohana IPE: Challenges, Prospects, and Impact. 2022 年度 東京都立大学健康福祉学部・教育改革事業記念 多職種連携教育(IPE) 国際シンポジウム・世界と日本の IPE の 20 年、これまでの変遷とこれからの進化を探る -. (オンライン)
36. Sakai, I. (2022). Workshop 1 Promoting implementation of Evidence-Based Practice: Asian JBI Centre Initiatives. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS conference. March 10 and 11, 2023, Tokyo, Japan.
37. 酒井郁子, 大島拓, 島田陽子, 佐伯昌俊, 西宮岳 (2023). 千葉大学特定行為研修シンポジウム 特定行為研修修了看護師のさらなる活用に向けて. (オンライン)

〔受賞 (国内・国外) 〕

38. 第 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会,学術集会長賞 (国内)
臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 酒井郁子(2022).看護学部のカリキュラム改変が IPE の学習成果に与えた効果～学生の自己評価の分析から
39. 第 21 回日本 VR 医学会学術大会, 優秀賞 (銀賞) (国内)
森下裕咲子, 大浦祐矢, 小山博史, 臼井いづみ, 野村行弘, 中口俊哉(2022). 多重課題シミュレーションに向けた目の応答による認知負荷量推定手法の検討

〔その他〕

40. 酒井郁子(2022). 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医療教育センター運営会議 医療教育センター運営会議への参加および専門職連携教育に関するコンサルテーション. (オンライン)
41. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022): 千葉大学医学部附属病院 2022 新入職員ガイドン

ス合同研修「専門職連携（IPW）」。

42. 井出成美(2022). 夢ナビ講義 video 超高齢社会で求められるコラボレーション力とは. フロムページ.(オンライン)
43. 酒井郁子(2022): 東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 質管理 I.
44. 酒井郁子(2022): IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. 専門職連携の基礎的知識.
45. 酒井郁子(2022): IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. チームについて.
46. 井出成美(2022): IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. 対立の解決のための戦略.
47. 酒井郁子(2022): 千葉県看護協会 令和 4 年度生涯教育計画に基づく研修会「高齢者の起こりやすい機能低下と生活適応を支える看護」.(オンライン)
48. 井出成美(2022): 夢ナビライブ 高校生とのオンラインディスカッション フロムページ. (オンライン)
49. Usui, I.: 2022 TMUN Online Exchange Program. Chiba University School of Nursing Curriculum and Clinical Practicum.
50. Ide, N.: 2022 TMUN Online Exchange Program. The Community-based Integrated Care Systems for the older person in Japan.
51. Sakai, I.: 2022 TMUN Online Exchange Program. The Education System of the Nursing Profession in Japan and an introduction of the Chiba University School of Nursing and Graduate School of Nursing.
52. 酒井郁子(2022): 藤田医科大学アセンブリ教育センター アセンブリ教育ワークショップ 特別講演「段階的・系統的な専門職連携教育の到達目標と評価方法」.
53. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹(2022): 千葉大学医学部附属病院 特定行為研修「チーム医療演習」.
54. 酒井郁子(2022): 茨城県きぬ看護専門学校 茨城県看護教員連絡会講演「専門基礎教育での IPE の実際と課題」 ホテルグランド東雲 (茨城) .
55. 酒井郁子(2022): 横浜市立大学医学科・看護学科 合同 FD「多職種連携教育」.(オンライン)
56. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, デビッド・カズノブ(2022): 群馬大学大学院 第 9 回群馬大学 IPE トレーニング 2022 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース.(オンライン)
57. 酒井郁子(2022): IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.専門職連携の基礎知識.(オンライン)
58. 酒井郁子(2022): IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.IPE カリキュラムマネジメント基礎編. (オンライン)
59. 酒井郁子(2022): IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修.IPE と組織改革. (オンライン)
60. 臼井いづみ(2022): 神奈川県立保健福祉大学 シミュレーション勉強会 講師 「多職種シナリオ作成のコツ その工夫と留意点」.(オンライン)
61. 野崎章子(2022): 大学模擬授業(千葉県立佐倉高校). 国際保健と看護-Global Health and Nursing.
62. 酒井郁子(2022): 千葉県看護協会 第 21 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル 「統合演習 II」 .
63. 酒井郁子(2022): 岩手県看護協会 令和 4 年度訪問看護事業所・医療機関等に勤務する看護職員の相

互研修.

64. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹(2022): 千葉大学医学部附属病院 第 3 回 看護師長研修「成果が出せるチームとして機能するためのリーダーシップとメンバーシップの発揮」.
65. 酒井郁子(2022): 金沢医科大学病院 キャリア支援センター 令和 4 年度特定行為研修フォローアップ事業「特定行為研修修了看護師が活躍するために」(WEB セミナー) 特定行為研修修了看護師の組織的配置・活用ガイドの概説.
66. 酒井郁子(2022): 東京都看護協会 職能Ⅱ委員会の研修会 特定行為制度の基本的な理解と修了者の活用～看護管理者の役割～.(オンライン)
67. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022): IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編①職種間の理解.(オンライン)
68. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹(2022): IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編②チーム内の効果的なコミュニケーション.(オンライン)
69. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹(2022): 千葉大学医学部附属病院 令和 4 年度新規採用者研修(年度中途採用者向け)「専門職連携(IPW)」.
70. 酒井郁子(2022): 回復期リハビリテーション病棟協会 2022 年度回復期リハ看護師認定コース 第 15 期 講師「看護とリハビリテーションの考え方」「QOL の考え方と評価」「生活の再構築と自立支援」.(オンライン)
71. 酒井郁子(2022): 介護施設看護力推進事業 高齢者施設で働く看護部門の責任者のマネジメント. 青森県看護協会.(オンライン)
72. 井出成美 (2022): IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修. 授業開発 インストラクショナルデザインと授業設計.(オンライン)
73. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022): IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編③チームワークの促進スキル.(オンライン)
74. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022): IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編④多職種カンファレンス.(オンライン)
75. 野崎章子(2022): 日本国際看護学会(2022 年度研修会). 精神保健と国際看護学.
76. 酒井郁子(2022): 神奈川県看護協会 令和 4 (2022)年度介護保険施設等看護研修Ⅲにおける講師「介護保険施設での看護管理者としての役割と責務」.(オンライン)
77. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022): IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤対立の解決.(オンライン)
78. 酒井郁子(2022): 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 多職種連携に必要な考え方と基礎的知識.(オンライン)
79. 井出成美(2022): 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 カンファレンスの基本動作.(オンライン)
80. 臼井いづみ(2022): 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 仕事におけるコミュニケーション.(オンライン)
81. 孫佳茹(2022): 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 アイスブレイク 私の仕事紹介.(オンライン)
82. 酒井郁子(2022): 東京都看護協会 東京都受託事業 令和 4 年度東京と看護師等キャリアアップ支援事業「特定行為研修修了者の活動を支える組織的配置と仕組みづくり」.(オンライン)
83. 酒井郁子(2023): 北関東救急看護協会 「北関東救急看護研究会」教育セミナー 救急看護領域の特定行為と看護師の役割拡大.

84. 酒井郁子(2023): IPERC 主催 IPW マネジメント研修実践編.プロジェクトの基本的知識と進捗管理.
85. 酒井郁子(2023): 京都府病院協会・京都府立医科大学医学部看護学科 看護実践キャリア開発センター共催. 看護師特定行為研修セミナー「特定行為看護師としての役割開発と発展を目指して」特定行為研修修了者の配置・活用.



IPERC ロゴマークの由来

IPERC のロゴマークは、看護学部、医学部、薬学部の3つの学部からはじまった亥鼻 IPE のうねりが、新しい風を取り込んで大きくなっていく風のイメージで作成されました。

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター 令和4年度 事業報告書

発行者：千葉大学大学院看護学研究院専門職連携教育研究センター

編集者：酒井郁子、井出成美、野崎章子、臼井いづみ、孫佳茹、天井響子、富永嘉子、長谷川容佳、
佐野朋子、高野佳奈

発行日：令和5年（2023）年3月

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

E-mail : inohana-ipe@office.chiba-u.jp

URL : <https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>

※本報告書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することを禁止いたします。
活用に際しては、あらかじめ発行者に承諾を求めさせていただきますよう、お願いいたします。